

小山市経済動向実態調査

(令和4年度第1回報告書)

令和4年9月

小山市産業観光部商業観光課委託

白鷗大学ビジネス開発研究所

小山市経済動向実態調査

(令和4年度第1回報告書)

目次

要旨	1
1. 調査の目的	3
2. 調査対象・調査内容	3
2.1. 調査対象	3
2.2. 調査内容	6
3. 調査結果	7
3.1. 全般的な小山市の景気	7
3.2. 小山市における業界の景気	13
3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問	27
4. まとめ	35
(参考資料)	36
i. 小山市景気動向アンケート調査票(令和4年度第1回)	36
ii. 小山市景気動向アンケート調査(令和4年度第1回)の回答一覧	41
iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)	63

小山市経済動向実態調査プロジェクトメンバー

白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	西谷 勢至子
白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	高木 孝紀
白鷗大学経営学部講師・ビジネス開発研究所運営委員	八尾 政行
白鷗大学総合研究所担当職員	櫻庭 律子
(協力)白鷗大学経営学部教授・ビジネス開発研究所所長	小笠原 伸

小山市経済動向実態調査

(令和 4 年度第 1 回報告書)

令和 4 年 9 月

白鷗大学ビジネス開発研究所

白鷗大学ビジネス開発研究所では、小山市産業観光部商業観光課からの委託を受けて小山市の消費面を中心とした経済動向を把握するため、平成 14 年度以降、小山市経済動向実態調査を実施している。令和 4 年度小山市経済動向実態調査では、小山市景気動向アンケート調査(6 月と 12 月)とヒアリング調査(2 月)を実施予定である。本報告書は令和 4 年度小山市景気動向アンケート調査(第 1 回)の調査結果をまとめた令和 4 年度小山市経済動向実態調査の第 1 回報告書である。

要旨

令和 4 年 6 月から 7 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(令和 4 年度第 1 回)」の結果をみると、令和 4 年上半期(1~6 月期)の小山市の全般的な景況感は、前回調査(令和 3 年下半期(7~12 月期)、前々回調査(令和 3 年上半期(1~6 月期)から「良い」、「どちらともいえない」の割合が上昇し、「やや悪い」、「悪い」の割合が下落した。全体的に景況感は回復傾向にあることが景気動向指数(DI)からも観察されるが、いまだに 50%を下回っており、依然として厳しい景況感の表れとなった。その理由として、「お客様や取引先の様子」、「小山市の人出の状況」、「物価の動き」、「周辺地域の様子」といったものが上位に挙げられていた。これらは令和 2 年の初頭から続く、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が継続的に影響を及ぼしていることに加えて、今年に入ってからロシアのウクライナ侵攻や、中国での都市封鎖(ロックダウン)など国際的なサプライチェーンの混乱を背景とした、世界的な物価高の影響が要因であると考えられる。また、小山市の景気見通しに関して、前回の調査と比べ、「変わらない」、「やや悪くなる」の割合が上昇し、「やや良くなる」の割合が下落し、DI でみると 47.4%と、調査開始以来最高の水準であった前回調査の 64.9%から下落し、50%を下回った。2022 年 10 月に開催される栃木国体に伴う経済効果への期待がある一方で、コロナ禍、物価上昇、円安ドル高、ロシアのウクライナ侵攻の影響等の懸念事項が挙げられていた。

業界の小山市での売上金額についての回答についてみると、令和 4 年上半期(1~6 月期)は「増加した」、「やや減少した」の割合が上昇し、「やや増加した」、「変わらない」、「減少した」の割合が下落した。DI でみると 48.4%と前回(45.4%)から改善傾向にあるものの、50%には至っていない。売上見通しについては、「変わらない」、「減少する」の割合が上昇し、「やや増加する」の割合が下落した。DI でみると 48.6%と前回(57.1%)から下落し、50%を下回った。

販売価格見通しについて、令和 4 年下半期(7~12 月期)は令和 4 年上半期(1~6 月期)と比べ、「上昇する」、「やや低下する」の割合が上昇し、「やや上昇する」、「変わらない」の割合が下落した。DI で

みると58.8%と、前回(59.8%)から横ばいであり、調査開始以来3番目に高い水準となった。雇用見通しについては、令和4年下半期(7~12月期)は令和4年上半期(1~6月期)と比べ、「やや不足する」、「無回答」の割合が上昇し、「横ばい」の割合が下落した。DIで見ると、前回調査から58.3%と前回調査から横ばいであり3期連続で50%を上回った。資金繰りの状況に関して、令和4年上半期(1~6月期)は、「どちらともいえない」、「やや悪化した」、「悪化した」の割合が上昇し、「やや改善した」の割合が下落した。DIで見ると、44.1%と、前回(52.6%)から下落し、50%を下回った。資金繰りの状況についての回答の理由についてみると、特に、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(50.5%)が、前回、前々回調査から大きく割合が上昇していることに加えて、「人件費の変化」も同様に大きく割合が上昇している。賃金等の状況について、前回調査と比べ、「ベースアップを実施」、「ボーナスの実施」、「ボーナスの増額」の割合が上昇し、「定期給与の引下げ」、「ボーナスの減額」の割合が下落した。

今回のアンケート調査では、新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関する追加の質問に加えて、最近の為替レートの変化に関する質問を新たに行った。コロナ禍に関する質問では、コロナ以前とアンケート対象期間の状況の比較を、供給面、営業・勤務形態等、需要面に分けて尋ねた。その結果をみると、特に、供給面では「コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ」という回答の割合が上昇している。これは前述した国際情勢が、原材料や燃料の高騰を招いていることが原因と考えられる。最近の為替レートの変化に関して質問を行った理由として、2022年3月以降の急激な円安ドル高の進行がある。3月上旬までは1ドル115円前後で推移していたが、4月下旬には1ドル130円を超え、8月下旬にかけて1ドル130円台半ばから後半を推移している。このような、急激な為替の変化に対して、調査結果から、「マイナス」であると評価した割合が最も高く、望ましい為替レートの水準は1ドル110円程度であるとの回答が得られた。

以上のように、令和4年上半期(1~6月)の小山市の景況感に関して、依然として、多くの企業・店舗が新型コロナウイルス感染症の流行による負の影響を受けていることに加えて、国際的な情勢を背景とした、物価高、円安ドル高傾向が強い負の影響を及ぼしていることが見受けられた。2022年秋に栃木国体を控えているというプラス要因はあるものの、これらのマイナス要因は当分の間の景況感に大きく作用していこう。

1. 調査の目的

小山市景気動向アンケート調査は、小山市の景気動向を把握するため、小山市の流通業、サービス業、製造業などの企業、店舗に対して小山市の景況、各業界の業況等をアンケート形式で調査したものである。

2. 調査対象・調査内容

2.1.調査対象

令和4年6月から7月にかけて、小山市内の企業120社程度を対象に小山市の景気動向に関するアンケート調査を行い、38社から回答を得た。回収率は約32%である。

図表 2-1 回答企業の業種別構成

業種	社数(社)	
	今回	前回
流通業(小売業)	8	12
製造業	8	7
金融・保険業	4	3
運輸業	3	3
ホテル・旅館業	1	1
飲食業	1	2
通信・放送業	0	1
不動産・住宅業	1	3
サービス業	1	2
印刷業	0	0
不明	11	5
合計	38	39

(注) 前回は令和3年12月調査、業種を複数選択した企業、選択肢外の業種を回答した企業は不明に分類した。

前回調査(令和3年12月)に比べ

- ・ 増加した業種: 製造業、金融・保険業、不明
- ・ 減少した業種: 流通業(小売業)、飲食業、通信・放送業、不動産・住宅業、サービス業

図表 2-2 回答企業の従業者数

従業員数(人)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
1~4	6	15.8	15.4	15.2
5~9	5	13.2	23.1	15.2
10~19	5	13.2	12.8	10.9
20~29	4	10.5	7.7	2.2
30~49	3	7.9	7.7	13.0
50~99	6	15.8	15.4	13.0
100以上	5	13.2	12.8	23.9
不明	4	10.5	5.1	6.5
合計	38	100.0	100.0	100.0

(注) 前回は令和3年12月調査、前々回は令和3年6月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

前回調査(令和3年12月)に比べ

- ・ 構成比が2%ポイント以上上昇した従業者規模: 20~29人、不明
- ・ 構成比が2%ポイント以上減少した従業者規模: 5~9人

図表 2-3 回答企業の売上高

売上高(円)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
3,000万未満	6	15.8	15.4	13.0
3,000万~1億未満	4	10.5	7.7	8.7
1億~5億未満	9	23.7	33.3	26.1
5億~10億未満	3	7.9	10.3	8.7
10億以上	7	18.4	17.9	19.6
不明・該当なし	9	23.7	15.4	23.9
合計	38	100.0	100.0	100.0

(注) 前回は令和3年12月調査、前々回は令和3年6月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

前回調査(令和3年12月)に比べ

- ・ 構成比が2%ポイント以上上昇した年間売上高規模: 3000万~1億未満、不明・該当なし
- ・ 構成比が2%ポイント以上低下した年間売上高規模: 1億~5億未満、5億~10億未満

図表 2-4 回答企業における売上割合

小山市内の売上割合 (%)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
80~100	8	21.1	28.2	21.7
60~79	8	21.1	23.1	21.7
40~59	4	10.5	7.7	13.0
20~39	4	10.5	12.8	13.0
0~19	10	26.3	23.1	19.6
不明・該当なし	4	10.5	5.1	10.9
合計	38	100.0	100.0	100.0

(注) 前回は令和3年12月調査、前々回は令和3年6月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

小山市内の売上割合が60%以上の企業数の合計は16社(42.1%)となった(前回調査: 51.3%)。

2.2. 調査内容

今回の調査内容は、質問 1 から質問 14 までは、従来の調査と同様に、景況感に関わる項目である。そのうち、質問 1 から質問 4 までは、全般的な小山市の景気の現状および先行きに関して尋ねた、質問 5 から質問 14 までは、回答企業自身についての現状および先行きに関して尋ねている。質問 15、16 は新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関するもので、質問 17 は最近の為替レートの動きに関する質問事項となっている。

質問 1：小山市の景気の現状(水準)

質問 2-1: 質問 1 の回答理由

質問 2-2: 質問 2-1 の回答理由

質問 3: 令和 4 年下半期(7~12 月期) の小山市の景気見通し

質問 4: 質問 3 の回答理由

質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)

質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)

質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)

質問 7: 業界の小山市での売上見通し

質問 8: 質問 7 の回答理由

質問 9: 令和 4 年下半期(7~12 月期) の販売価格見通し

質問 10: 令和 4 年下半期(7~12 月期) の雇用見通し

質問 11: 令和 4 年上半期(1~6 月期) の資金繰りの状況

質問 12: 質問 11 の回答理由

質問 13: 令和 4 年度の賃金等の状況

質問 14: 質問 13 の回答理由

質問 15-1: コロナ禍の影響(供給面)

質問 15-2: コロナ禍の影響(営業・勤務形態等)

質問 15-3: コロナ禍の影響(需要面)

質問 16: 質問 15 の回答理由

質問 17-1: 円安ドル高の影響

質問 17-2: 望ましい円相場

質問 17-3: 最近の為替レートの動きや政府・中央銀行の対応への意見

3. 調査結果

3.1. 全般的な小山市の景気

質問 1 から質問 4 までは、全般的な小山市の景気について尋ねた。以下その結果を述べる。

3.1.1. 小山市の景気の現状(水準)(質問 1, 2-1, 2-2)

質問 1 では全般的な小山市の景気の現状(水準)を尋ねた。令和 4 年上半期(1~6 月期)は「良い」5.3%、「やや良い」10.5%、「どちらともいえない」52.6%、「やや悪い」18.4%、「悪い」13.2%となった。前回と比べ「良い」、「どちらともいえない」の割合が上昇し、「やや悪い」、「悪い」の割合が下落した。前回調査(令和 3 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「良い」(+5.3)、「どちらともいえない」(+11.6)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや悪い」(-9.8)、「悪い」(-4.7)

となった。DI¹で見ると 44.1%と前回(37.2%)、前々回(31.5%)から上昇傾向にあるものの、7 期連続で 50%を下回った(図表 3-1,3-2)。

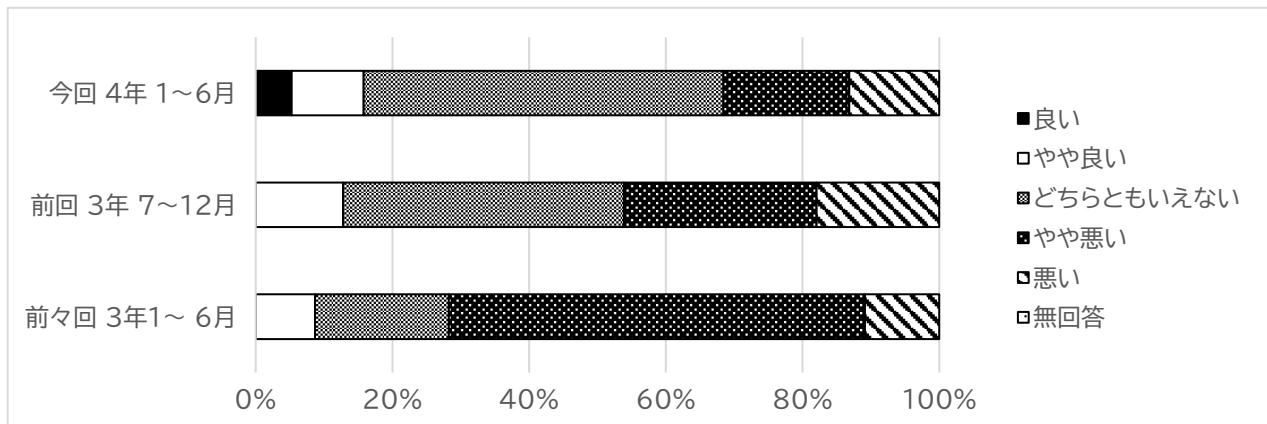
質問 1 の回答理由(質問 2-1)についてみると、「お客様や取引先の様子」(50.0%)、「小山市の人出の状況」(23.7%)、「物価の動き」(13.2%)及び「周辺地域の様子」(13.2%)が上位の理由だった(図表 3-3)。

質問 2-1 の具体的な回答内容(質問 2-2)は、令和 2 年初頭から継続している新型コロナウイルス感染症流行による経済活動への影響の部分的な改善が見られたものの、依然として厳しい状況にあることが窺えた。また、中国でのロックダウン(都市封鎖)やロシアのウクライナ侵攻といった要因による、サプライチェーンの混乱や、それに伴う資源価格等の上昇が経済活動に負の影響を与えていることが観察された。

¹ DI (Diffusion Index)とは、景気動向指数の一つであり、回答(%)の「良い」を 1、「やや良い」を 0.75、「どちらともいえない」を 0.5、「やや悪い」を 0.25、「悪い」を 0 として、構成比(無回答を除く)で加重平均したものである。DI が 50%を超えると景気回復、50%を下回ると景気悪化を示唆している。

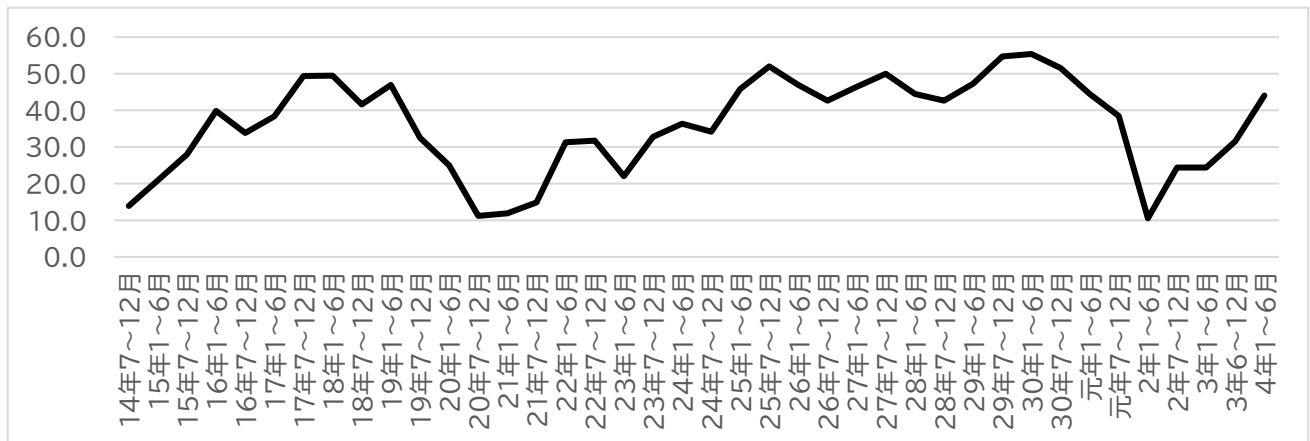
質問 1: 小山市の景気の現状(水準)

図表 3-1 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



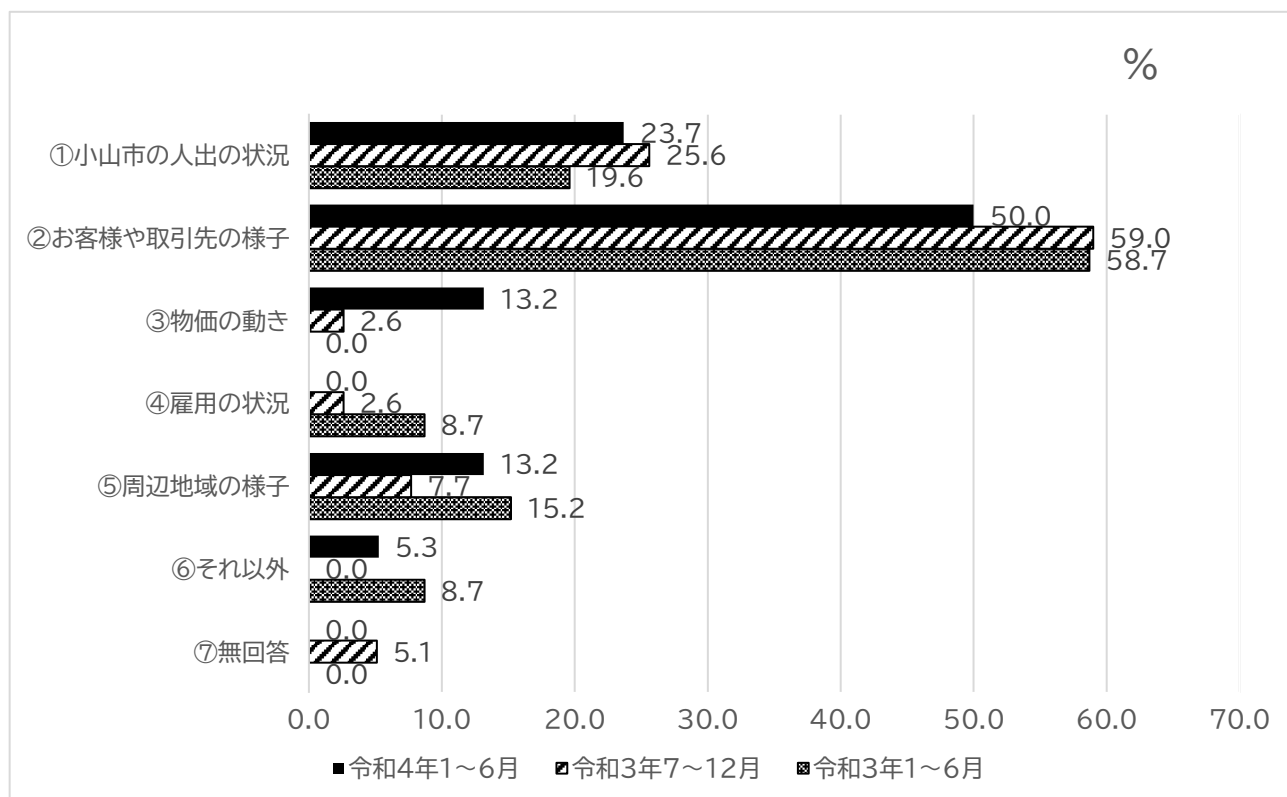
							(%)
	良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回 4年 1~6月	5.3	10.5	52.6	18.4	13.2	0.0	44.1
前回 3年 7~12月	0.0	12.8	41.0	28.2	17.9	0.0	37.2
前々回 3年1~ 6月	0.0	8.7	19.6	60.9	10.9	0.0	31.5

図表 3-2 DI の推移(%)



質問 2-1: 質問 1 の回答理由

図表 3-3 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



質問2-1	①小山市の 人出の状況	②お客様や 取引先の様子	③物価の 動き	④雇用の 状況	⑤周辺地域の 様子	⑥それ 以外	⑦無回答	(%)
質問1								
良い	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや良い	0.0	5.3	0.0	0.0	2.6	2.6	0.0	0.0
どちらともいえない	15.8	28.9	10.5	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0
やや悪い	2.6	5.3	0.0	0.0	7.9	2.6	0.0	0.0
悪い	2.6	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	23.7	50.0	13.2	0.0	13.2	5.3	0.0	

(注) 38社に対する比率。複数回答があり、合計は100%にならない。

質問 2-2: 質問 2-1 の具体的な回答内容

◆ 良い

- ・ 「3月より稼働率が伸びています(前年比20%増)」(①小山市の人出の状況)

- ・ 「例年より取引単価が高い案件が多かった」(③物価の動き)
- ◆ やや良い
 - ・ 「新車販売の原材料不足での供給遅れ」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「人の動きが少しずつ増加している。出張など宿泊客が増加してきた。」(⑤周辺地域の様子)
- ◆ どちらともいえない
 - ・ 「コロナの影響は続いているが、人出は増えたように思われる。コロナ・ウクライナ情勢、円安の影響か、景気が良いという実感はない。」(①小山市の人出の状況)
 - ・ 「以前(コロナ流行前)の状況に戻ったわけではないが、コロナ流行ピーク時よりは、徐々に回復傾向にあるように感じる。」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「急激な為替レート変動による影響」(③物価の動き)
 - ・ 「来工された営業との雑談で変化があるような感じではなかったため。」(⑤周辺地域の様子)
 - ・ 「足元の外部環境の変化(ウクライナ情勢、原油資源高など)により影響が出始めている。または今後の影響が予想される。」(②お客様や取引先の様子、③物価の動き)
- ◆ やや悪い:
 - ・ 「人出は以前に比べて増えたが、日によって波が大きく安定しているとは言えないので」(①小山市の人出の状況)
 - ・ 「3月年度末以降注文がない」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「競合出店に伴うマーケット環境の激化」(⑤周辺地域の様子)
- ◆ 悪い:
 - ・ 「お客様の減少」(①小山市の人出の状況)
 - ・ 「取引先等の方とお話しをした時に以前(コロナ前)沢山取引や卸しがあったところが8~9割減ったとお話を伺いました。」(②お客様や取引先の様子)

3.1.2. 令和4年下期(7~12月期)の小山市の景気見通し(質問3,4)

質問3の小山市の景気見通しに関して、令和4年下半期(7~12月期)は令和4年上半期(1~6月期)と比べ、「良くなる」2.6%、「やや良くなる」15.8%、「変わらない」55.3%、「やや悪くなる」21.1%、「悪くなる」5.3%となった(図表3-4, 3-5)。前回と比べ「変わらない」、「やや悪くなる」の割合が上昇した。一方で、「やや良くなる」の割合は下落した。前回調査(令和3年12月)と比べ、

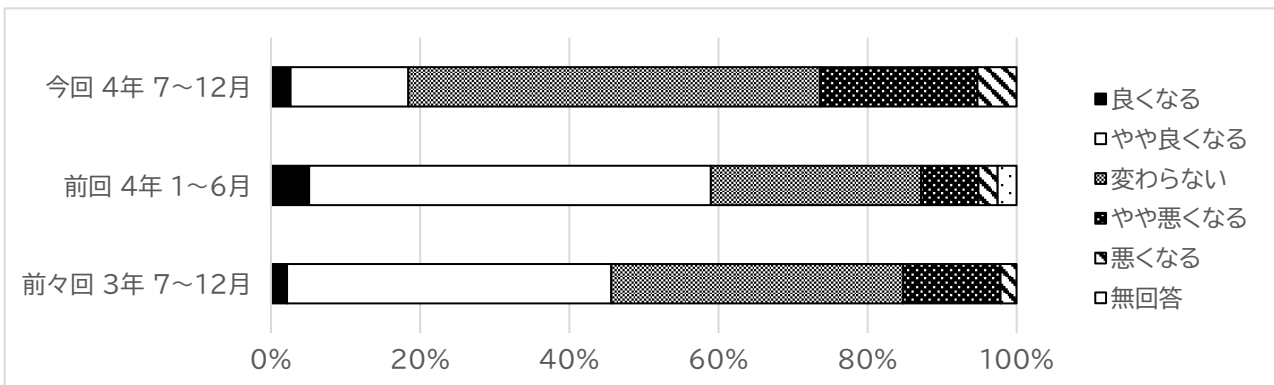
- ・ 3%ポイント以上増加: 「変わらない」(+27.1)、「やや悪くなる」(+13.4)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや良くなる」(-38.0)

となった。DIで見ると47.4%と前回(63.2%)から下落した。

質問3の回答理由(質問4)では、秋に開催される栃木国体に伴う経済効果への期待がある一方で、コロナ禍、物価上昇、円安、ロシアのウクライナ侵攻の影響等の懸念事項が挙げられていた。

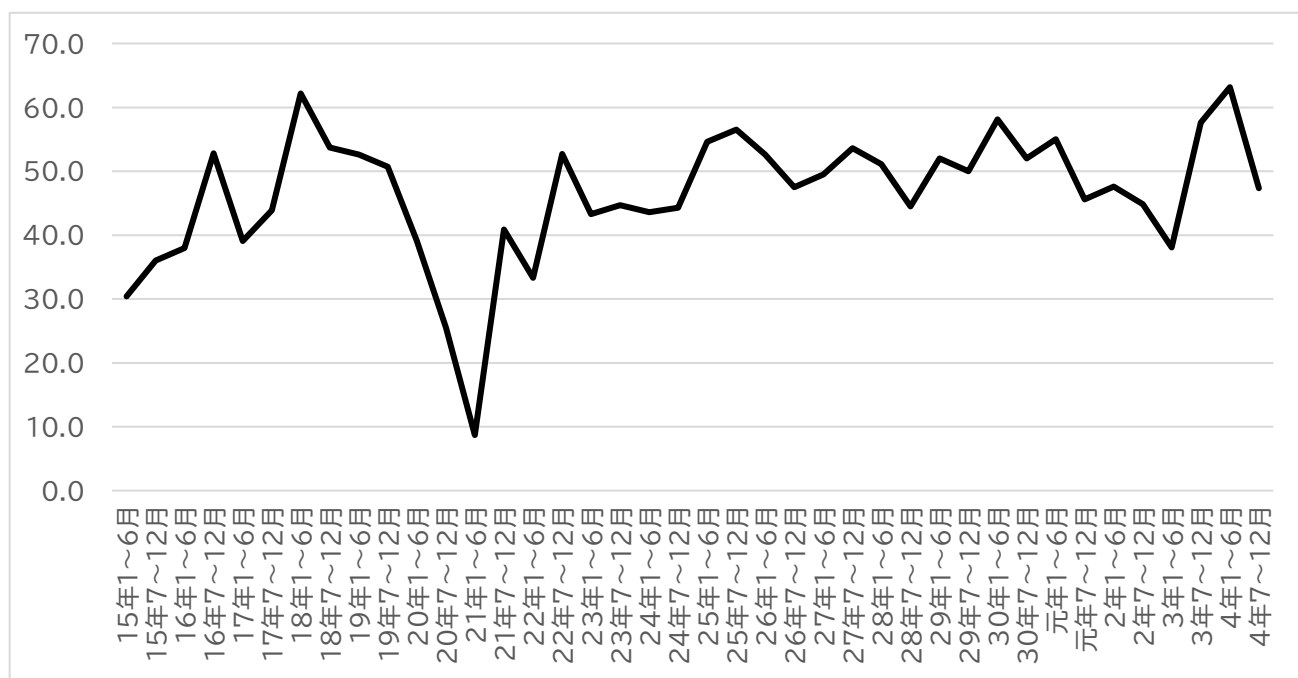
質問3: 令和4年下半期(7~12月期)の小山市の景気見通し

図表 3-4 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期							(%)
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回 4年 7~12月	2.6	15.8	55.3	21.1	5.3	0.0	47.4
前回 4年 1~6月	5.1	53.8	28.2	7.7	2.6	2.6	63.2
前々回 3年 7~12月	2.2	43.5	39.1	13.0	2.2	0.0	57.6

図表 3-5 DI の推移(%)



質問 4: 質問 3 の回答理由

- ◆ 良くなる
 - ・ 「現在の状況が続くと思われます」
- ◆ やや良くなる
 - ・ 「新型コロナの流行の拡大は懸念されるものの、底堅い消費動向と企業の業績改善努力により景気回復の兆しも目に見え始める。」
 - ・ 「国体等もありますので、秋の行事についても少しは向上してくるのではないかと期待しています。」
- ◆ 変わらない
 - ・ 「コロナの状況は変わらないが、人流は活発になってきている。その一方で物価が高騰しているため、景気が良くなると思えない。」
 - ・ 「栃木国体による特需に期待したが、オミクロン BA5 による感染拡大や物価上昇による買い控え等により期待できない。」
- ◆ やや悪くなる
 - ・ 「インフレがさらに進行し、生活費を圧迫し、購買意欲が低下し、景気に悪影響を及ぼす」
 - ・ 「コロナの影響が不安」
- ◆ 悪くなる
 - ・ 「ウクライナ問題、コロナ禍、円安 etc.」
 - など

3.2. 小山市における業界の景気

質問 5 から質問 14 までは、小山市における回答企業・店舗の業界景気動向を尋ねた。以下その結果を述べる。

3.2.1. 業界の小山市での売上げ(質問 5, 6-1, 6-2)

業界の小山市での売上げについて、令和 4 年上半期(1~6 月期)は「増加した」7.9%、「やや増加した」15.8%、「変わらない」39.5%、「やや減少した」28.9%、「減少した」5.3%となった(図表 3-6, 3-7)。前回と比べ「増加した」、「やや減少した」の割合が上昇し、「やや増加した」、「変わらない」、「減少した」の割合が下落した。前回調査(令和 3 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「増加した」(+7.9)、「やや減少した」(+8.4)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや増加した」(-7.3)、「変わらない」(-4.1)、「減少した」(-5.0)

となった。DI でみると 48.0%と前回(45.4%)から改善傾向にあるものの、7 期連続で 50%を下回った。

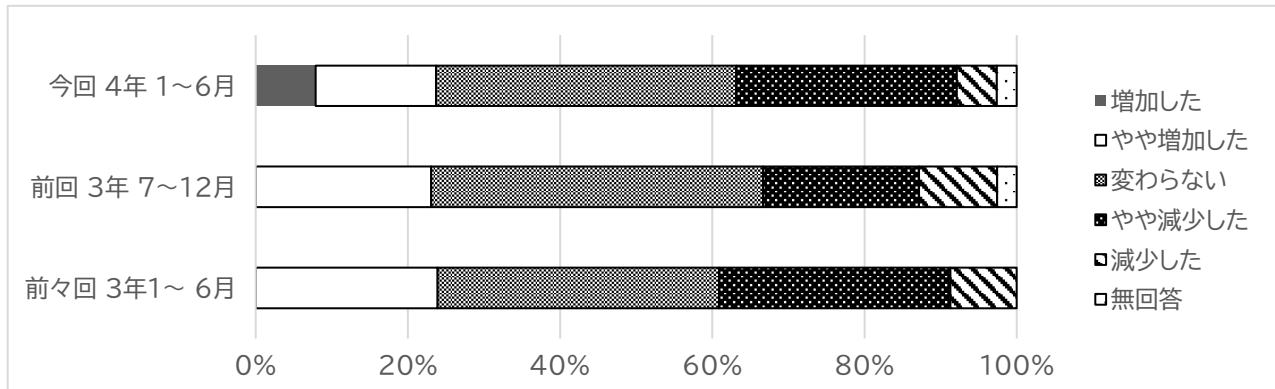
質問 5 の回答の理由(質問 6-1)についてみると、家計向け取引の場合、「無回答」を除いて、「来客数の動き」(28.9%)、「販売量の動き」(15.8%)、「販売価格の動き」(13.2%)が上位に挙げられていた理由だった(図表 3-8)。

企業向け取引の場合、「無回答」を除いて、「受注量や販売量の動き」(50.0%)、「受注価格や販売価格の動き」(18.4%)、「取引先の様子」(13.2%)、が上位の理由だった(図表 3-9)。

質問 6-1 の具体的な回答内容(質問 6-2)では家計向け取引、企業向け取引のいずれでも、新型コロナウイルス感染症の流行に関する回答のほかに、原材料価格の高騰についての回答が多く見られた。

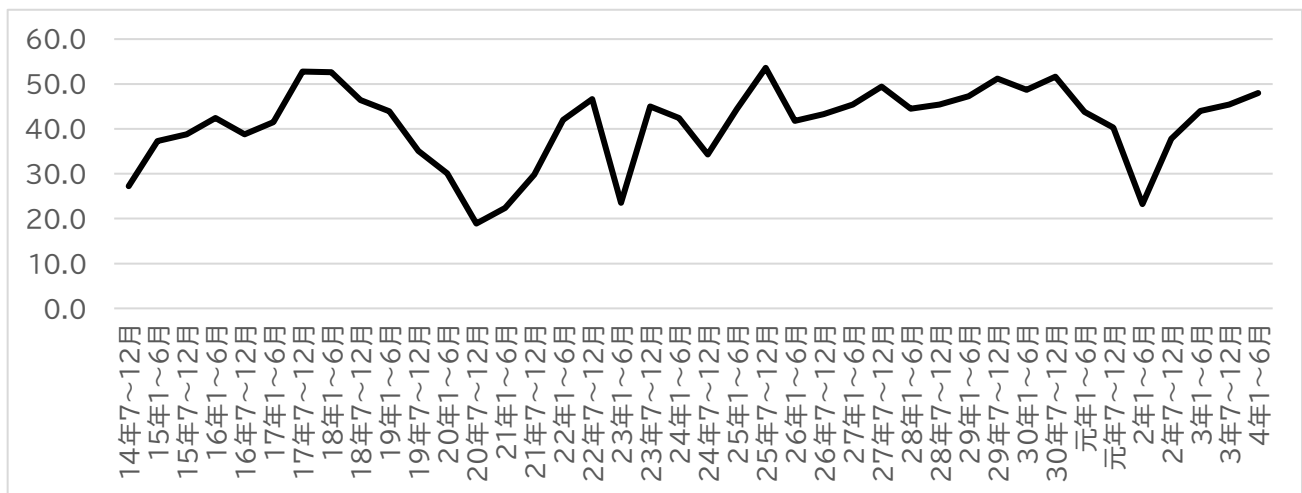
質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

図表 3-6 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



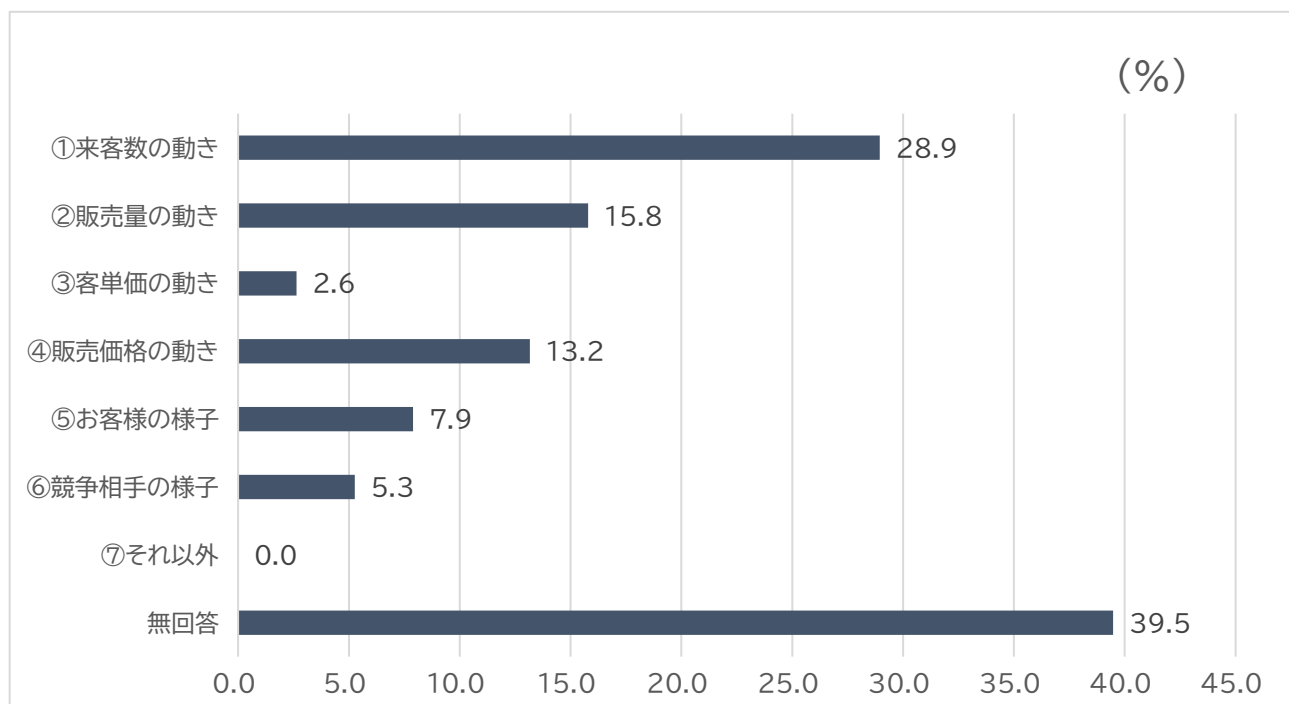
	増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	減少した	無回答	DI
今回 4年 1~6月	7.9	15.8	39.5	28.9	5.3	2.6	48.0
前回 3年 7~12月	0.0	23.1	43.6	20.5	10.3	2.6	45.4
前々回 3年1~6月	0.0	23.9	37.0	30.4	8.7	0.0	44.0

図表 3-7 DI の推移(%)



質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)

図表 3-8 質問 5 と質問 6-1(家計消費向け取引)のクロス集計

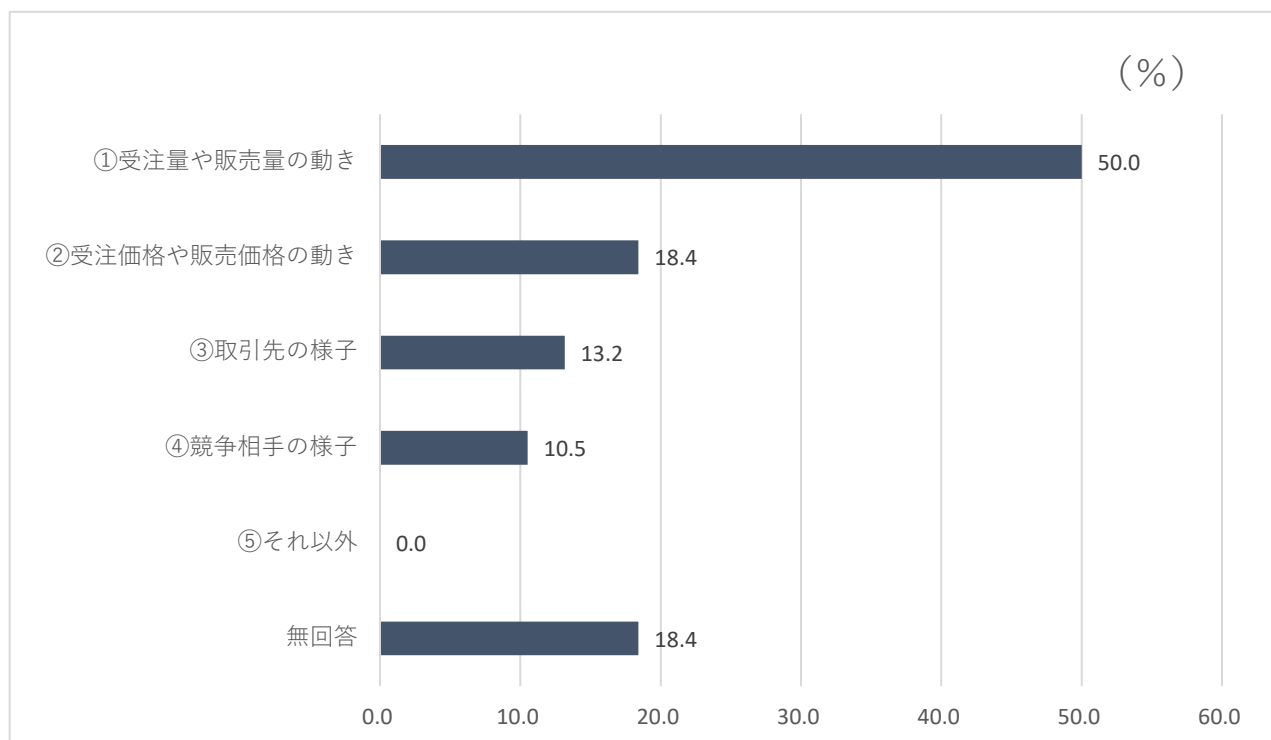


質問6-1	①来客数の動き	②販売量の動き	③客単価の動き	④販売価格の動き	⑤お客様の様子	⑥競争相手の様子	⑦それ以外	無回答 (%)
増加した	2.6	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6
やや増加した	10.5	2.6	2.6	5.3	2.6	0.0	0.0	2.6
変わらない	10.5	10.5	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	15.8
やや減少した	2.6	2.6	0.0	2.6	2.6	5.3	0.0	13.2
減少した	2.6	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6
計	28.9	15.8	2.6	13.2	7.9	5.3	0.0	39.5

(注)無回答は家計向け取引のない企業(店舗)が含まれる。
表の%は38社に対する比率。

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)

図表 3-9 質問 5 と質問 6-1(企業消費向け取引)のクロス集計



						(%)
質問6-1	①受注量 や販売量	②受注価格 や販売価格	③取引先 の様子	④競争相手 の様子	⑤それ以外	無回答
質問5						
増加した	2.6	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0
やや増加した	2.6	0.0	0.0	5.3	0.0	7.9
変わらない	23.7	5.3	5.3	0.0	0.0	5.3
やや減少した	18.4	7.9	2.6	5.3	0.0	2.6
減少した	2.6	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6
計	50.0	18.4	13.2	10.5	0.0	18.4

(注)無回答には企業向け取引のない企業(店舗)が含まれる。

表の%は集計38社に対する比率。

質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)

- ◆ やや増加した
 - ・ 「昨年末から来客は徐々に増加」(不明)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「競合出店+節約志向上昇(特に食品)」(流通業(小売業))
など

質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)

- ◆ やや増加した
 - ・ 「アルミ溶解工場からの受注が増えた」(不明)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「当社の製品は畑作向け農業機械のため、基本的に季節的要因に左右されます。季節的要因を取り除いて考えると、変わらないと思います。」(製造業)
 - ・ 「海外仕入れ商品の価格上昇(円安による)と海外運賃の高騰」(不明)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「材料の値上げで見た目はさほど変わらないが実質はマイナスである」(不明)
 - ・ 「受注量の減少、鋼材等の諸資材、原油価格が高騰しているため」(製造業)
- ◆ 減少した
 - ・ 「出荷量が減少している」(製造業)
など

質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引と企業消費向け取引)

- ◆ 増加した
 - ・ 「客室稼働率の上昇=収入の増となっています。」(ホテル・旅館業)
- ◆ やや増加した
 - ・ 「コロナの規制が緩和され、飲食、宿泊者の利用が増加してきた。」(不明)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「BtoC は低下(又は変わらない)BtoB は上昇傾向、これは弊社の戦略によるものでもある。」(製造業)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「仕入価格が全体的に上昇しているため」(流通業(小売業))
など

3.2.2. 業界の小山市での売上見通し(質問 7, 8)

業界の小山市での売上見通しに関して、令和 4 年下半期(7~12 月期)は令和 4 年上半期(1~6 月期)と比べ、「増加する」2.6%、「やや増加する」21.1%、「変わらない」50.0%、「やや減少する」15.8%、「減少する」7.9%となった(図表 3-10, 3-11)。前回と比べ「変わらない」、「減少する」の割合が上昇し、「やや増加する」の割合が下落した。前回調査(令和 3 年 12 月)と比べ、

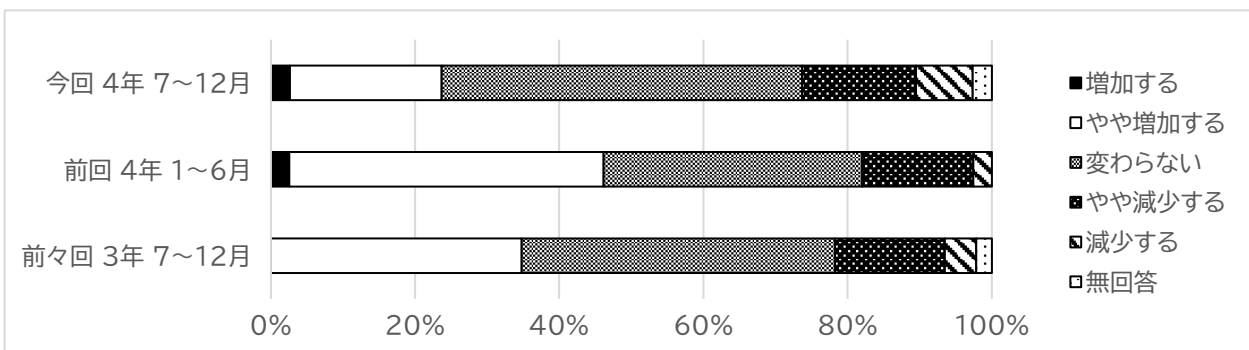
- ・ 3%ポイント以上増加: 「変わらない」(+14.1)、「減少する」(+5.3)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや増加する」(-22.5)

となった。DI でみると 48.6%と前回(57.1%)から下落し、50%を下回った。

質問 7 の回答の理由(質問 8)についてみると、質問 3 の回答理由(質問 4)と同様に、秋に開催される栃木国体に伴う経済効果への期待がある一方で、コロナ禍、物価上昇、円安、ロシアのウクライナ侵攻の影響等の懸念事項が挙げられていた。

質問 7: 業界の小山市での売上見通し

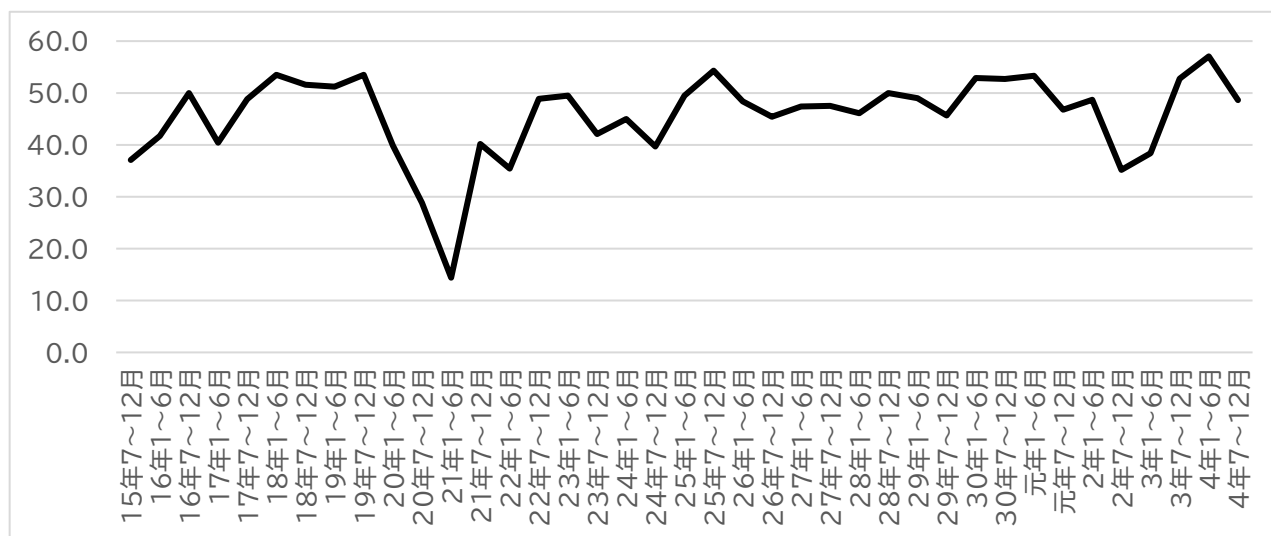
図表 3-10 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期							(%)
	増加する	やや増加する	変わらない	やや減少する	減少する	無回答	DI
今回 4年 7~12月	2.6	21.1	50.0	15.8	7.9	2.6	48.6
前回 4年 1~6月	2.6	43.6	35.9	15.4	2.6	0.0	57.1
前々回 3年 7~12月	0.0	34.8	43.5	15.2	4.3	2.2	52.8

(注) 複数選択した回答は無回答に分類した。

図表 3-11 DIの推移(%)



質問 8: 質問 7 の回答理由

- ◆ やや増加する
 - ・ 「国体という大きなイベントがあるので、経済効果があると考えられます。」(ホテル・旅館業)
 - ・ 「受注量、生産量の増加が見込まれているため」(製造業)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「配達等(宅配)の案件は増加している(BtoC)が、BtoB の案件は減少の一途をたどっていて、回復する気配がない。」(運輸業)
 - ・ 「競合出店+節約志向上昇(特に食品)」(流通業(小売業))
- ◆ やや減少する
 - ・ 「扱い商品が 10%以上値上がりすることでユーザーが買い控えている。」(流通業(小売業))
 - ・ 「材料高、資料燃料等の値上げに対し、顧客先は部品不足などで発注量が減少か横ばいのため」(不明)
- ◆ 減少する
 - ・ 「コロナ禍の再発生」(不明)
 - など

3.2.3. 令和4年下半期(7~12月期)の販売価格見通し(質問9)

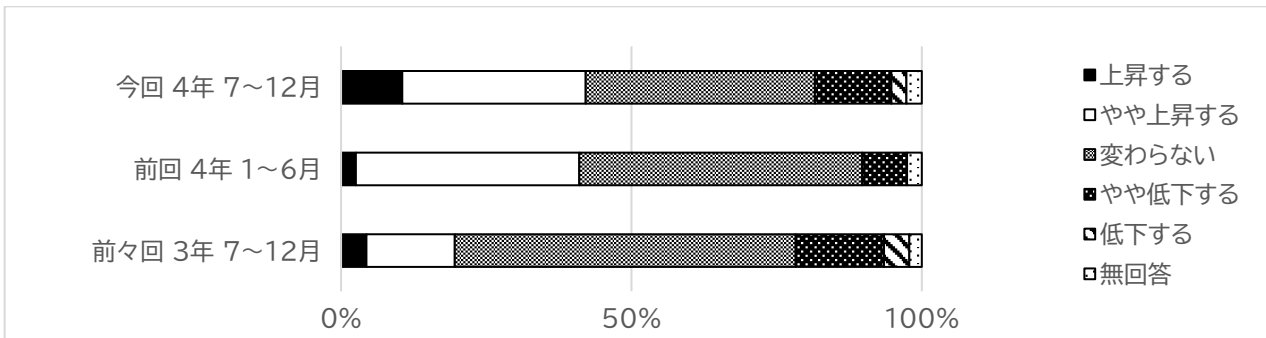
販売価格見通しについて、令和4年下半期(7~12月期)は令和4年上半期(1~6月期)と比べ、「上昇する」10.5%、「やや上昇する」31.6%、「変わらない」39.5%、「やや低下する」13.2%、「低下する」2.6%となった(図表3-12, 3-13)。前回と比べ「上昇する」、「やや低下する」の割合が上昇し、「やや上昇する」、「変わらない」の割合が下落した。前回調査(令和3年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「上昇する」(+7.9)、「やや低下する」(+5.5)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや上昇する」(-6.9)、「変わらない」(-9.2)

となった。DI でみると 58.8%と、前回(59.2%)から横ばいであり、調査開始以来3番目に高い水準となった。

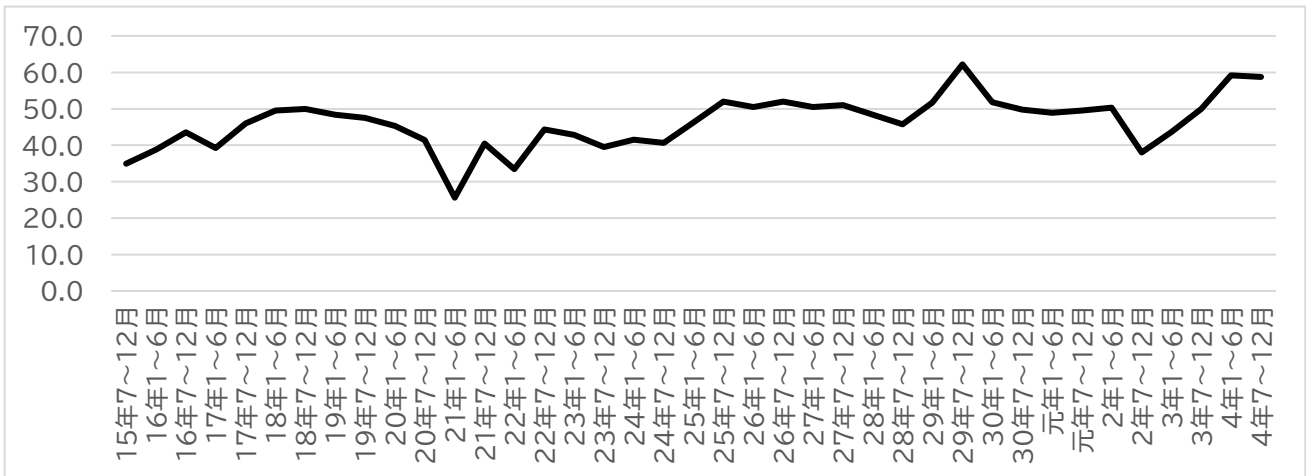
質問9: 令和4年下半期(7~12月期)の販売価格見通し

図表 3-12 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期	上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回 4年 7~12月	10.5	31.6	39.5	13.2	2.6	2.6	58.8
前回 4年 1~6月	2.6	38.5	48.7	7.7	0.0	2.6	59.2
前々回 3年 7~12月	4.3	15.2	58.7	15.2	4.3	2.2	50.0

図表 3-13 DI の推移(%)



3.2.4. 令和4年下半期(7~12月期)の雇用見通し(質問10)

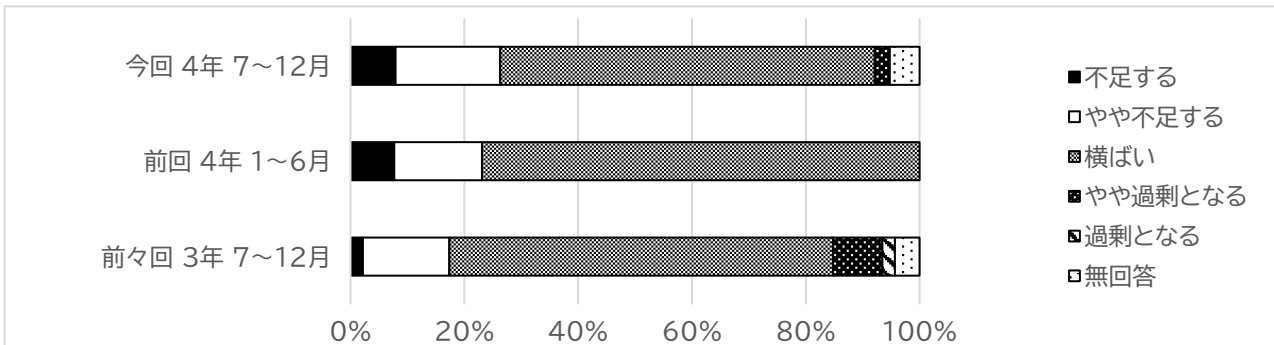
質問10の雇用見通しに関して、令和4年下半期(7~12月期)は令和4年上半期(1~6月期)と比べ、「不足する」7.9%、「やや不足する」18.4%、「横ばい」65.8%、「やや過剰となる」2.6%、「過剰となる」0.0%となった(図表3-14, 3-15)。前回と比べ「やや不足する」、「無回答」の割合が上昇し、「横ばい」の割合が下落した。前回調査(令和3年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや不足する」(+3.0)、「無回答」(+5.3)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「横ばい」(-11.1)

となった。DIでみると58.3%と、前回(57.7%)から横ばいであるが、3期連続で50%を上回った。

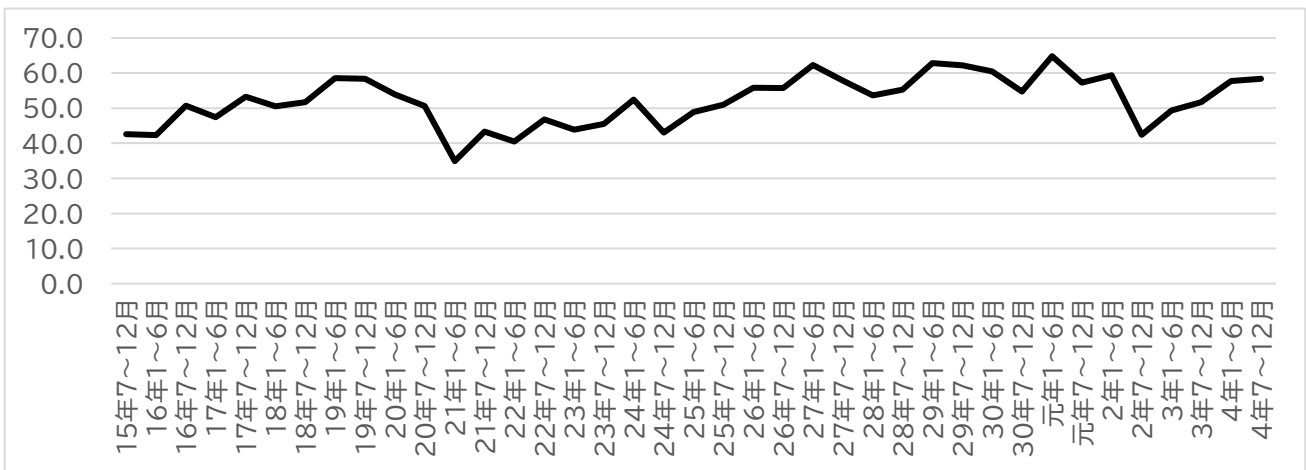
質問10: 令和4年下半期(7~12月期)の雇用見通し

図表 3-14 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期	不足する	やや不足する	横ばい	やや過剰となる	過剰となる	無回答	DI
今回 4年 7~12月	7.9	18.4	65.8	2.6	0.0	5.3	58.3
前回 4年 1~6月	7.7	15.4	76.9	0.0	0.0	0.0	57.7
前々回 3年 7~12月	2.2	15.2	67.4	8.7	2.2	4.3	51.7

図表 3-15 DIの推移(%)



3.2.5. 令和4年上半期(1～6月期)の資金繰りの状況(質問11, 12)

質問11の資金繰りの状況に関して、令和4年上半期(1～6月期)は令和3年下半期(7～12月期)と比べ、「改善した」5.3%、「やや改善した」10.5%、「どちらともいえない」50.0%、「やや悪化した」23.7%、「悪化した」10.5%となった(図表3-16, 3-17)。前回と比べ「どちらともいえない」、「やや悪化した」、「悪化した」の割合が上昇し、「やや改善した」の割合が下落した。前回調査(令和3年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「どちらともいえない」(+3.8)、「やや悪化した」(+8.3)、「悪化した」(+5.4)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや改善した」(-20.3)

となった。DIで見ると44.1%と、前回(52.6%)から下落し、50%を下回った。

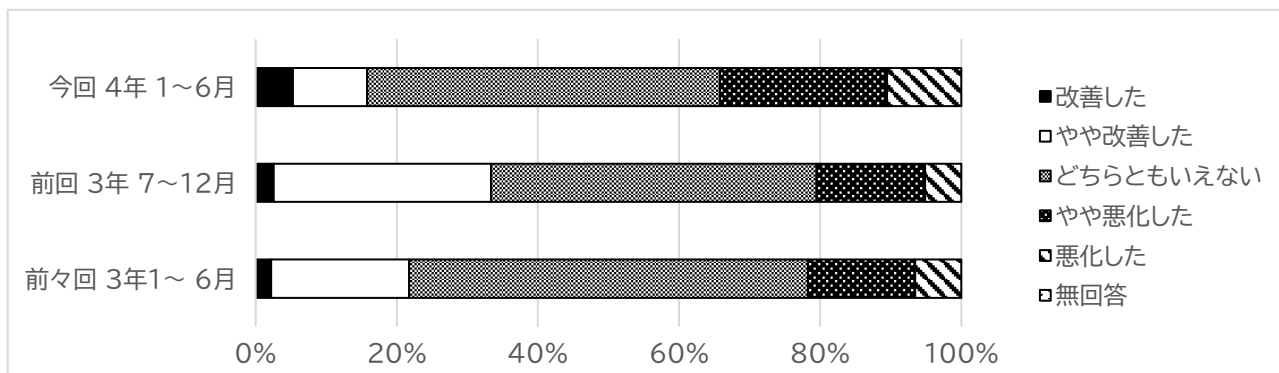
質問11の回答の理由(質問12)についてみると、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(50.0%)「売上高の変化」(42.1%)、「人件費の変化」(26.3%)が上位三位までの理由だった(図表3-18)。前回調査、前々回調査から、特に「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」の割合が大きく上昇している。前回調査(令和3年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「設備資金需要の変化」(+7.9)、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(+11.5)、「人件費の変化」(+10.9)、「金融政策、金利の変化」(+7.9)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「売上高の変化」(-11.7)、「その他」(-10.1)

となった。

質問 11: 令和 4 年上半期(1~6 月期) の資金繰りの状況

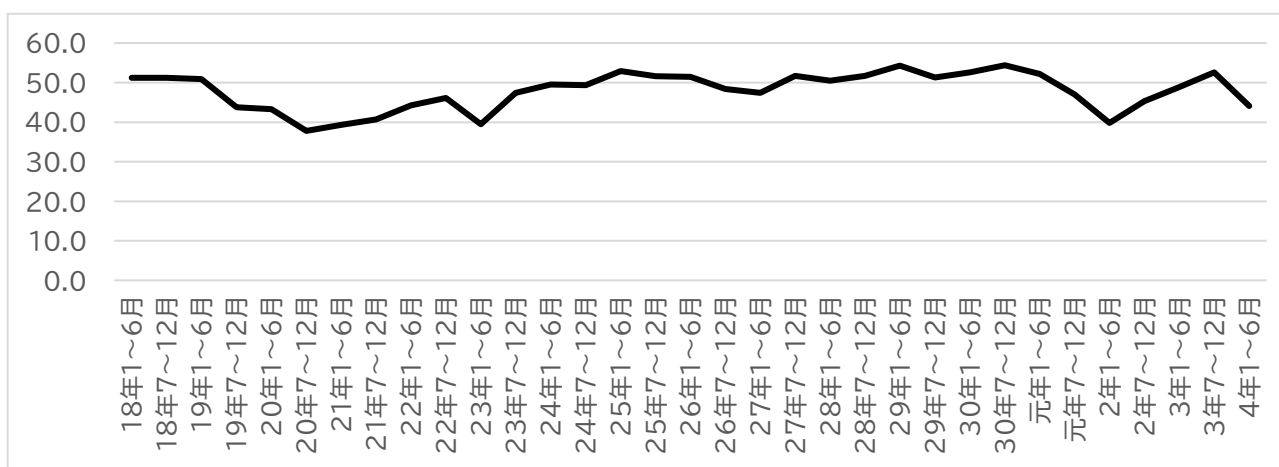
図表 3-16 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



	改善した	やや改善した	どちらともいえない	やや悪化した	悪化した	無回答	DI
今回 4年 1~6月	5.3	10.5	50.0	23.7	10.5	0.0	44.1
前回 3年 7~12月	2.6	30.8	46.2	15.4	5.1	0.0	52.6
前々回 3年1~6月	2.2	19.6	56.5	15.2	6.5	0.0	48.9

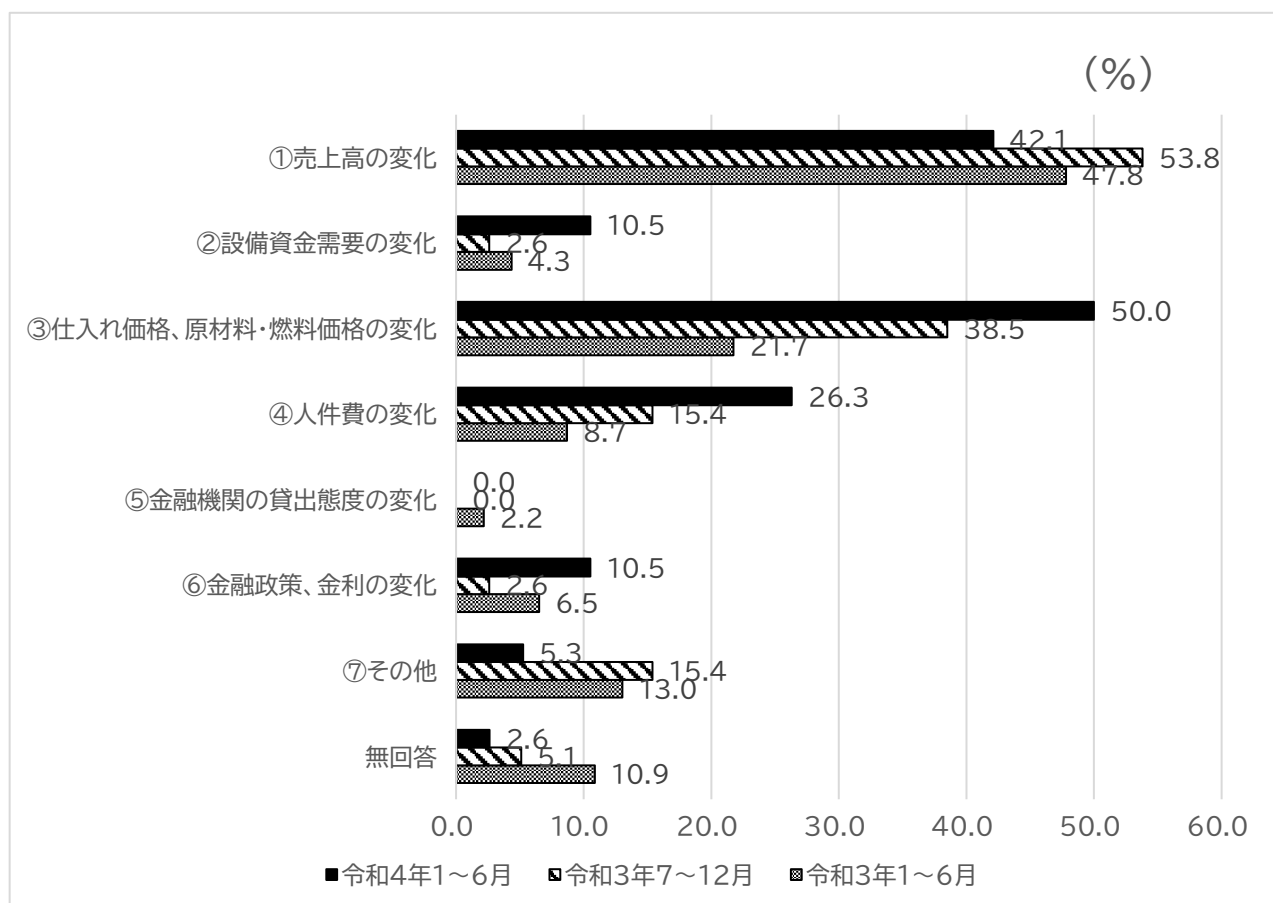
(注) 複数選択した回答は無回答に分類した。

図表 3-17 DI の推移(%)



質問 12: 質問 11 の回答理由

図表 3-18 回答の割合(前回、前々回との比較を含む)



質問12	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	(%)
質問11								無回答
改善した	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0
やや改善した	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
どちらともいえない	21.1	5.3	23.7	13.2	0.0	7.9	2.6	2.6
やや悪化した	5.3	5.3	18.4	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0
悪化した	7.9	0.0	7.9	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	42.1	10.5	50.0	26.3	0.0	10.5	5.3	2.6

(注) 38社に対する比率。複数回答があり、合計は100%にならない。

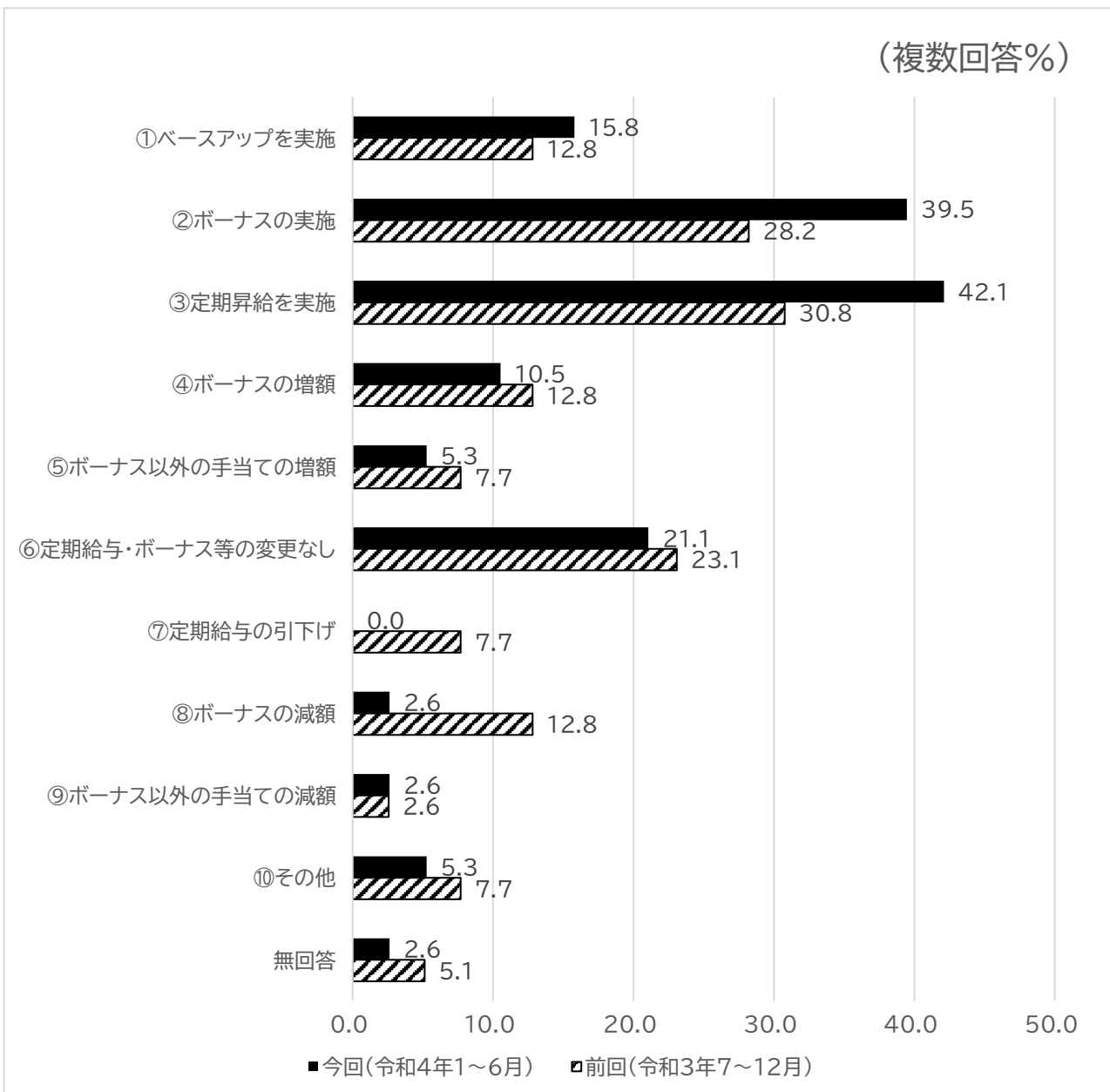
3.2.6. 賃金等の状況(質問 13, 14)

前回調査(令和3年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「ベースアップを実施」(+3.0)、「ボーナスの実施」(+11.3)、「定期昇給を実施」(+11.3)
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「定期給与の引下げ」(-7.7)、「ボーナスの減額」(-10.2)
- となった(図表 3-19)。

質問 13: 賃金等の状況

図表 3-19 回答の割合(前期との比較を含む)



質問 14: 質問 13 の回答理由

- ◆ ①ベースアップを実施
 - ・ 「3%のベースアップ」
- ◆ ②ボーナスの実施
 - ・ 「売上が伸びない中、ボーナスを出すのも苦しいが、コロナの大変な中、仕事に従事してくれている従業員に対して、ボーナスを支給した。」
- ◆ ③定期昇給を実施
 - ・ 「給与を引上げしていきたい」
- ◆ ⑤ボーナス以外の手当の増額
 - ・ 「アルバイトの子たち等は、急なキャンセル等でお休みになったりしてしまうため、確実な出勤ができる日は‘大入り’や気持付けで手当てをプラスします。」
- ◆ ⑥定期給与・ボーナス等の変更なし
 - ・ 「売上は減少しているが、人員不足もあるため何とか現状維持したいため」
- ◆ ⑧ボーナスの減額
 - ・ 「コロナ禍で売上が減少しているため」
- ◆ ⑩その他(正規社員雇用が大幅アップ)
 - ・ 「パートさんが多かったから。正規社員だと厚生年金、雇用保険など会社負担が大きくなった。」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施
 - ・ 「コロナ禍で従業員の退職やモチベーションの低下が見られ、一方で経費減や業況の多少の回復があったので、モチベーション維持のため」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「従業員のモチベーション維持、向上につながるものと考え実施した。」
- ◆ ①ベースアップを実施、③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「①③賃金構造基本統計調査と連動させているため、④業況判断から」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「会社にとってプラス要因はあまり無く、ボーナス・昇給の実施は厳しいが、従業員を守るために実施。」
- ◆ ③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「人材不足のため」
など

3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問

質問 15～17 は、小山市における昨今の社会・経済情勢に関する質問を行った。以下その結果を述べる。質問 15、16 は、新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響について、質問 17 は、最近の為替レートの変化に関して質問を行った。

3.3.1. 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響

質問 15(質問 15-1～15-3)、質問 16 では新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響とその理由について尋ねた。それぞれ、供給面(質問 15-1)、営業・勤務形態等(質問 15-2)、需要面(質問 15-3)の影響に分けて質問を行った。

その結果(複数回答可)をみると、まず、供給面(質問 15-1)では、「コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ」(26.3%)、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(26.3%)、「供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない」(23.7%)が上位三位までの理由だった(図表 3-20)。

前回調査(令和 3 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ」(+10.9)、「商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った」(+5.5)
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「供給能力はコロナ禍前の状況に回復した」(-5.1)、「その他」(-5.1)
- となった(図表 3-20)。

次に、営業・勤務形態等(質問 15-2)では、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(23.7%)、「コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ」(18.4%)が上位の理由だった(図表 3-21)。

前回調査(令和 3 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ」(+3.0)、「コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている」(+3.0)、「勤務形態はコロナ禍前のものに戻った」(+5.3)、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(+3.2)
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前の営業時間に戻った」(-12.4)
- となった(図表 3-21)。

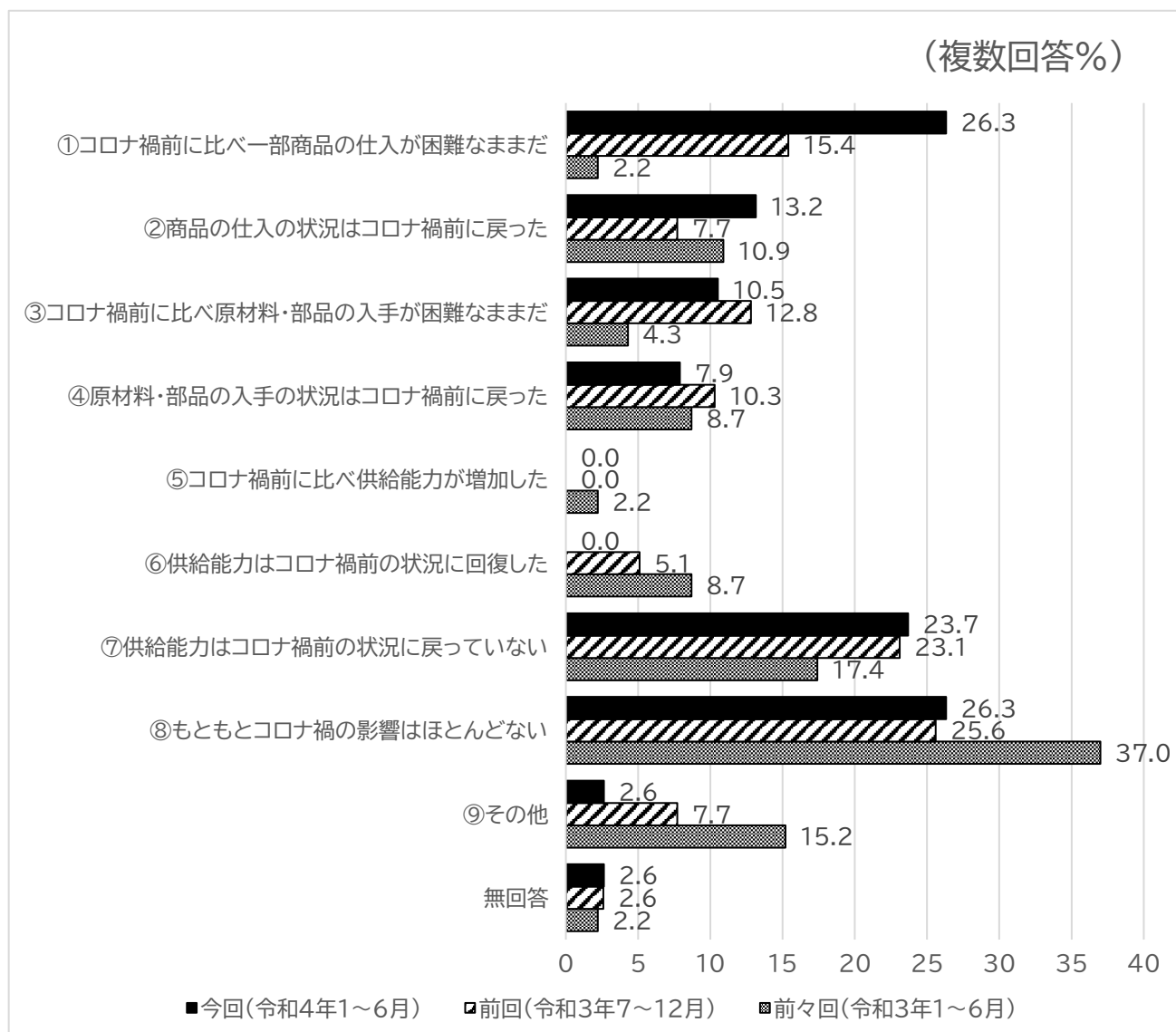
最後に、需要面(質問 15-3)では、「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」(47.4%)、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(18.4%)、「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した」(15.8%)が上位三位までの理由だった(図表 3-22)。

前回調査(令和 3 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」(+8.9)、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(+8.1)
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した」(-7.7)、「無回答」(-7.7)
- となった(図表 3-22)。

質問 15-1: コロナ禍の影響(供給面)

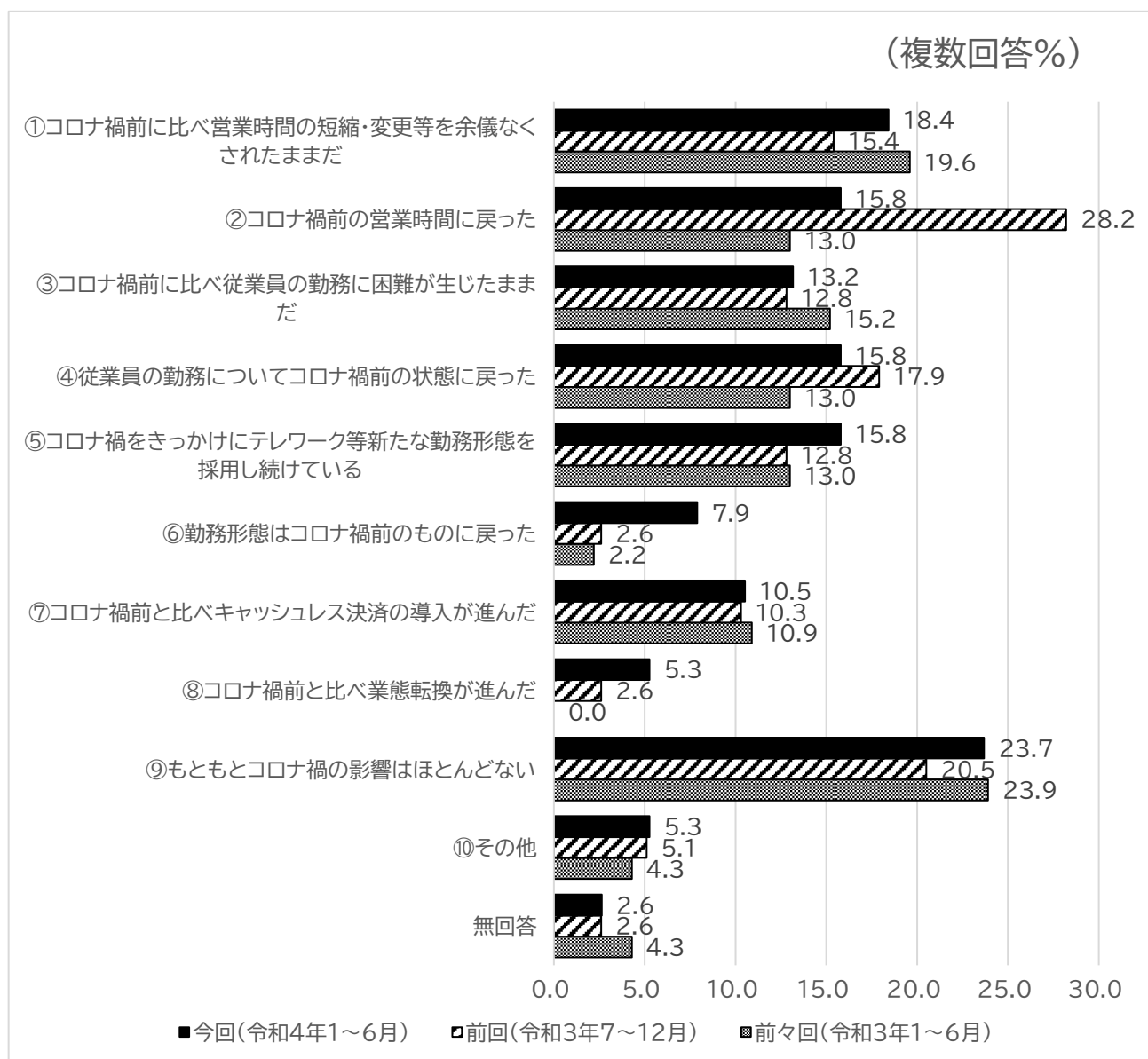
図表 3-20 回答の割合



(注) 今回調査は 38 社、前回調査は 39 社、前々回調査は 46 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 15-2: コロナ禍の影響(営業・勤務形態等)

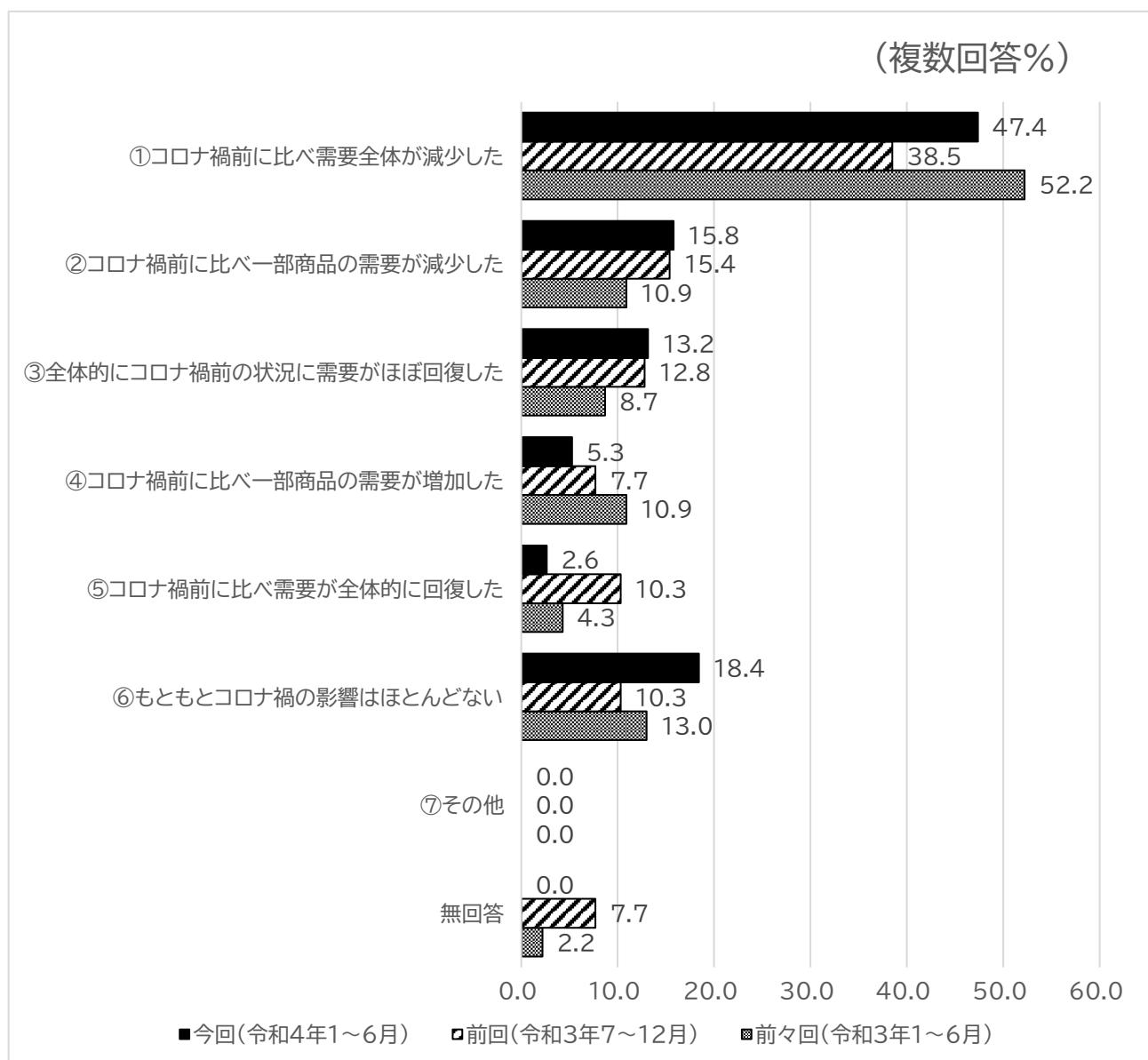
図表 3-21 回答の割合



(注) 今回調査は 38 社、前回調査は 39 社、前々回調査は 46 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 15-3: コロナ禍の影響(需要面)

図表 3-22 回答の割合



(注) 今回調査は 38 社、前回調査は 39 社、前々回調査は 46 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

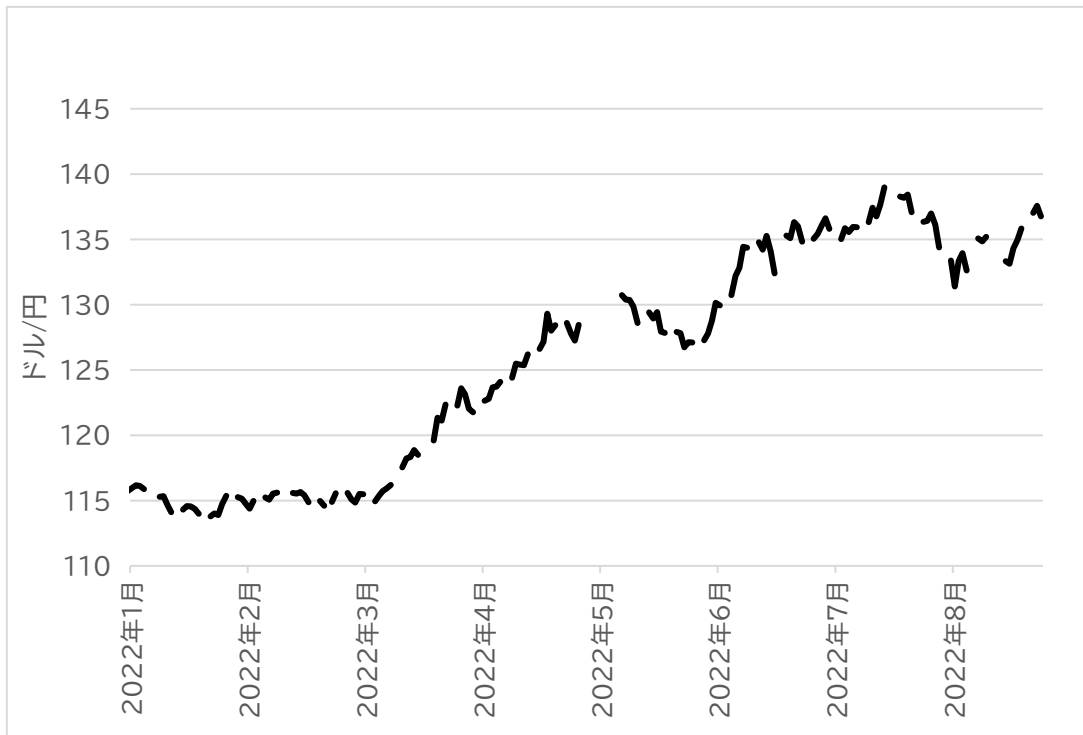
質問 16: 質問 15 の回答理由

- ・ 「業界的に影響はほとんどなく、また、社内での陽性者も少なかった。」(質問 15-1⑧、15-2⑨、15-3⑥)
- ・ 「弊社のお客様は工場関係が多く、円安や物価(原材料)の高騰に伴い、生産が落ちている傾向がある。それによって荷物が出なくなり、結果、運送の需要が減っている。」(質問 15-1⑨、15-2⑨、15-3①)
- ・ 「コロナ禍で停まっていた企業の設備投資が始まり、その関係の方の宿泊が増えています。+従来のビジネスがほぼ元に戻りました。」(質問 15-1①、15-2④、15-3③)
- ・ 「人が集まる機会が少なくなったので、その分注文が入らないため。」(質問 15-1⑧、15-2⑨、15-3②)
- ・ 「農業機械のため、コロナの影響は需要の面ではあまりありません。」(質問 15-1①、15-2⑩、15-3⑥)
- ・ 「当社は化粧品関係の仕事なので、マスクを付けている関係で非常に影響はある。」(質問 15-1②、15-2④、⑦、15-3①、②)
- ・ 「長期化したコロナの影響により、会食等のあつまりごとを手控える風潮が定着している。」(質問 15-1⑦、15-2①、③、15-3①)
- ・ 「仕入価格、原材料や燃料の高騰で商品提供するのも厳しい状況です。」(質問 15-1①、③、15-2①、③、15-3①)
- ・ 「コロナ感染防止対策として、時差出勤、テレワーク導入を行っている。」(質問 15-1⑧、15-2⑤、15-3⑥)
など

3.3.2. 最近の為替レートの変化の影響

質問 17(質問 17-1、17-2、17-3)は、最近の為替レートの変化に関して質問を行った。2022年の3月以降、円安ドル高が急激に進行した。3月上旬までは1ドル115円前後で推移していたが、4月下旬には1ドル130円を超え、8月下旬にかけて1ドル130円台半ばから後半を推移している(図表 3-23)。

図表 3-23 為替レート(ドル/円)の推移



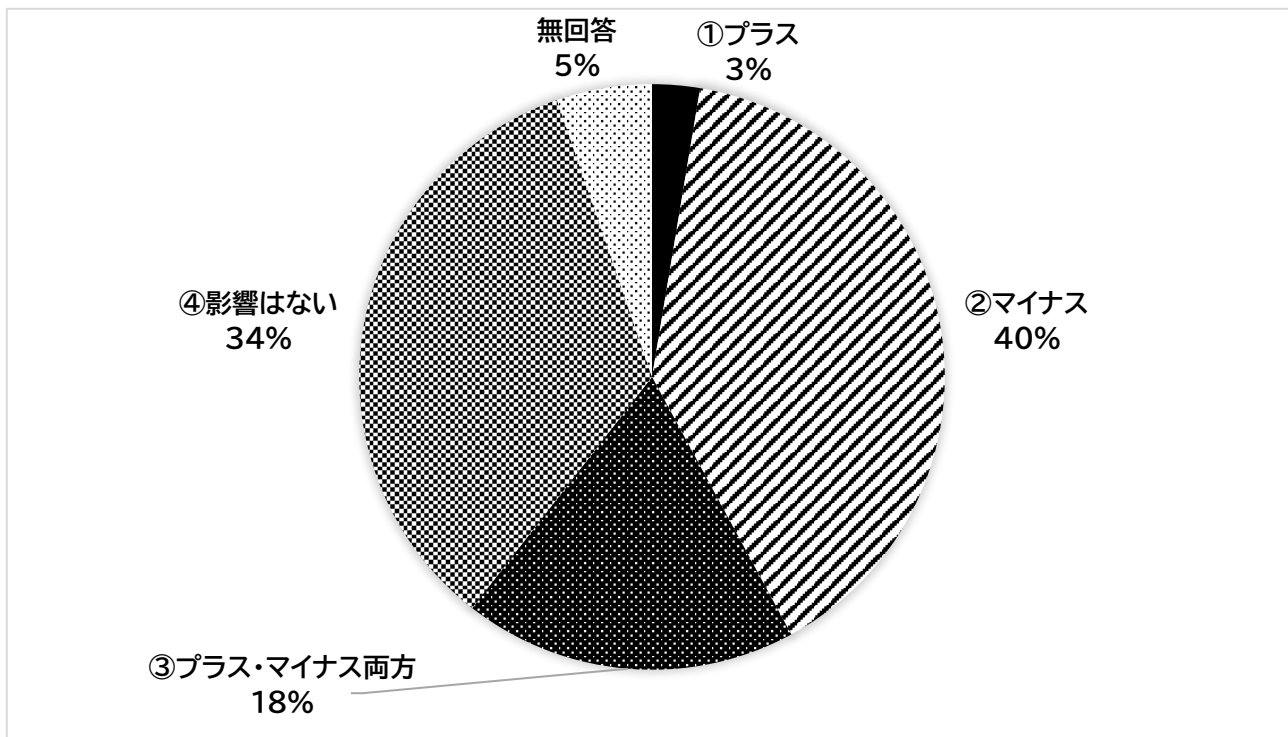
質問 17-1 では、円安ドル高は貴社(貴店)にとってプラスに働くか、マイナスに働くかについて尋ねた。「マイナス」が40%と最も高い割合であり、次に「影響はない」が34%となった(図表 3-24)。

次に、質問 17-2 で、質問 17-1 で①、②、③のいずれかに回答した企業に対して、望ましい円相場はどの程度あるのかを尋ねた。平均は、1ドル110.9円、中央値は1ドル110円、最頻値も1ドル110円となった(図表 3-25)。

最後に、質問 17-3 では、最近の為替レートの動きや政府・中央銀行の対応についての意見を求めた。円安に伴うガソリン等の物価上昇や、急激に円安が進行したことによる顧客対応に関する懸念が見られた。また、近年の物価の上昇に対して、賃金の上昇を伴っていないことに関して、政府、中央銀行の政策に関する疑問の声もあった。

質問 17-1: 円安ドル高は貴社(貴店)にとってプラスに働くか、マイナスに働くか

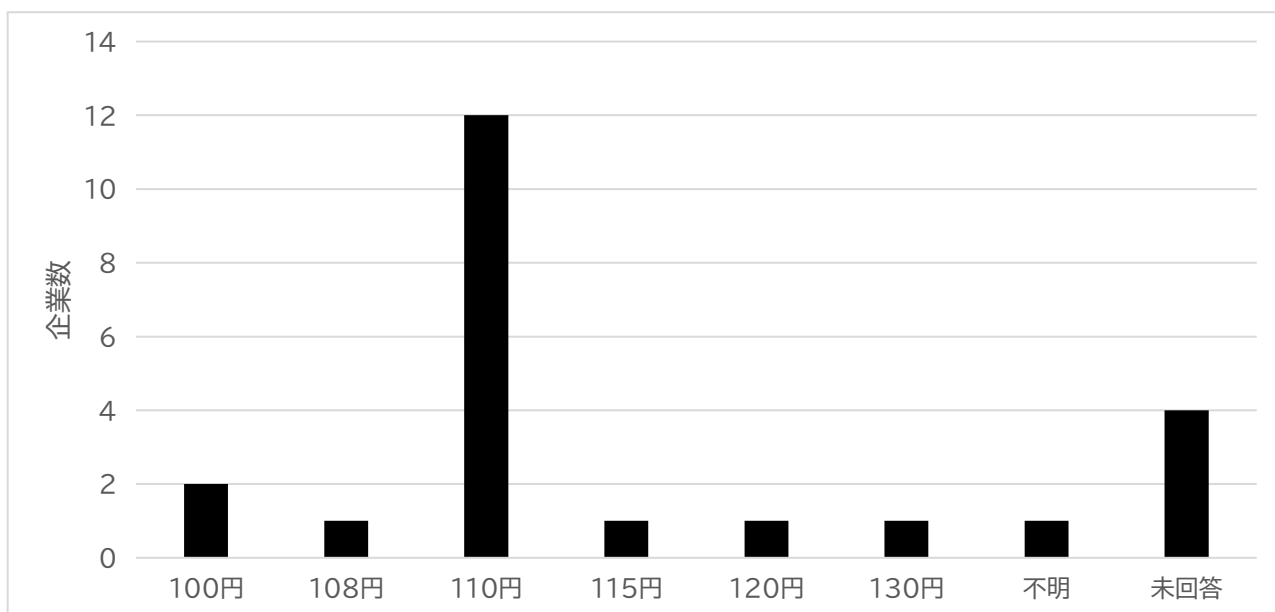
図表 3-24 回答の割合



(注) 38 社に対する比率。

質問 17-2: 貴社(貴店)にとって望ましい円相場は 1 ドル何円か

図表 3-25 回答の割合



(注) 質問 17-1 で①、②、③のいずれかに回答した 23 社が対象。

質問 17-3: 最近の為替レートの動きや政府・中央銀行の対応についての意見

- ・ 物価高を受け入れたつもりはない。
- ・ ガソリンの値上がりが困っています。
- ・ 日本ではデフレーション脱却の為、長く低金利政策を継続しています。結果が出ないまま外的要因によって物価が上がってしまいました。勤労所得が上がらないままの状態では、ますます購買力が低下してしまいます。昨今、アメリカではラーメンが一杯¥3000 と聞きますが、所得が上がっているために、大した問題になりません。バブル崩壊後の資金繰りで受けたトラウマから抜ける事の出来ない中、経営者には給与改善に力を入れられません。大企業は押しなべて好決算から国の税況も増加しています。率先した行動を期待します。
- ・ 1ドル何円というよりも、急激な円安で顧客対応が大変。米の金利が上昇しているのでその部分ではプラス。
- ・ 中央銀行の対応に疑問を感じる・世界で日本だけ取り残されるか心配・人口減少に対する取組が必要

4. まとめ

最近の日本経済の動きを GDP 速報(2022 年 4-6 月期・1 次速報(2022(令和 4)年 8 月 15 日公表))でみると、令和 3 年の実質 GDP 成長率(2015 年暦年連鎖価格)は年率換算で 2.3%増となり、3 年ぶりのプラス成長となった。四半期別(季節調整済、前期比)でみると、0.5%増(令和 4 年 4 ~6 月期)となった。新型コロナウイルス対策のまん延防止等重点措置が取られた前期(令和 4 年 1 月 ~3 月期)は 0%であり、経済活動が制限されたことによる負の影響があったが、令和 4 年 3 月には重点措置は解除され、4 月下旬からの大型連休でも 3 年ぶりに行動制限がなかった。令和 4 年の経済の状況も、新型コロナウイルス感染症の流行の状況とその波及効果に左右されることになるだろう。一方で、令和 4 年 7 月から始まった新型コロナウイルスの第 7 波に対して、まん延防止等重点措置等の行動制限を伴う措置が取られていないことから、社会のこの感染症への関わり方にも変化がみられている。

こうした状況のなか令和 4 年 6 月から 7 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(令和 4 年度第 1 回)」の結果を見ると、「質問 1 小山市の景気の現状」は DI で見ると、50%を超えないものの継続的な上昇傾向が見られた。一方で、「質問 3 小山市の景気見通し」は DI が 50%を下回ったことから、先行きへの懸念が見られた。これは、前述した新型コロナウイルス感染症流行に加え、ロシアのウクライナ侵攻や、中国の都市封鎖(ロックダウン)による国際的なサプライチェーンの混乱による、経済的、政治的なリスクが反映されたものであると考えられる。

このような状況のもとで、世界的な物価上昇が発生している。日本においても、企業物価指数(2022 年 7 月速報)で、前月比+0.4%(前年比+8.6%)となり、17 カ月連続前年の水準を上回った。消費者物価指数でも、総合指数で 102.3(2020 年を 100 とする)となり、前年同月比で 2.6%上昇している。本調査においても、「質問 2 質問 1 の理由」で「物価の動き」と回答する割合が上昇していることや、「質問 6-1、6-2」で「販売価格の動き」や「受注量や販売量の動き」が上位の理由に挙げられていること、「質問 9」の販売価格見通しに関する DI が高い水準で推移しているといったように、物価上昇の様子がアンケートの回答からうかがうことができる。当面継続するとみられる物価上昇は、今後の小山市の景気に影響を与えることになるだろう。

また、最近の経済の状況として、急激な円安ドル高の進行が挙げられる。この背景には、アメリカでの記録的なインフレを抑えるため、アメリカの中央銀行にあたる FRB(連邦準備制度理事会)は金融引き締め政策である、利上げを継続的に行っており、その結果、日本との金利差が拡大し、長期的な円安ドル高の圧力が強まっていることが要因としてある。質問 17 で最近の為替レートについて尋ねたところ、多くの企業は、最近の円安ドル高傾向をマイナスと捉えており、望ましい為替レートは 1 ドル 110 円程度であるという回答が得られた。

FRB の金融引き締めによる景気後退が懸念され、2022 年 2 月に始まったロシアによるウクライナ侵攻もいまだ終結のめどが立っておらず、長期化の様相を呈している。近年の懸念事項である新型コロナウイルス感染症流行に加えて、これらの国際的な情勢が原因となり、最近の物価上昇や円安ドル高が発生していることから、現在の傾向がしばらくの間継続していくと考えなければならないだろう。

(参考資料)

i. 小山市景気動向アンケート調査票(令和4年度第1回)

小山市景気動向アンケート調査 調査票 (令和4年度第1回)

(2022年6月現在の状況でお答え下さい。5ページ目までご記入のほどよろしくお願い申し上げます。)

質問1 現在の小山市の景気についての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて2022年上半期(1~6月期)の景気は良いと思いますか、悪いと思いますか。(水準)

- ① 良い ② やや良い ③ どちらともいえない ④ やや悪い ⑤ 悪い

質問2-1 質問1のご回答の理由として、どのような点に着目されましたか。もっとも適切と思われるものを一つ選んでください。「⑥それ以外」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 小山市の人出の状況 ② お客様や取引先の様子(購買態度など)
③ 物価の動き ④ 雇用の状況 ⑤ 周辺地域の様子
⑥ それ以外()

質問2-2 質問2-1の回答内容について具体的に説明してください。

質問3 小山市の景気の先行きについての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて、2022年下半年期(7~12月期)の景気は、2022年上半期(1~6月期)と比べて良くなると思いますか、悪くなると思いますか。(将来の方向)

- ① 良くなる ② やや良くなる ③ 変わらない ④ やや悪くなる ⑤ 悪くなる

質問4 質問3でそのように回答した理由を教えてください。

質問5 貴店(貴社)の売上げ等からみて、貴業界の小山市における2022年上半期(1~6月期)の需要は季節的な要因を除いて、2021年下半年期(7~12月期)にくらべて売上金額で増加したと思いますか。

- ① 増加した ② やや増加した ③ 変わらない ④ やや減少した ⑤ 減少した

質問 6-1 質問 5 でそのように回答された理由として、もっとも適当と思われるものを一つ選んでください。

(家計消費向け取引(B to C)の場合)

- ① 来客数の動き ② 販売量の動き ③ 客単価の動き ④ 販売価格の動き
⑤ お客様の様子 ⑥ 競争相手の様子 ⑦ それ以外 ()

(企業向け取引(B to B)の場合)

- ① 受注量や販売量の動き ② 受注価格や販売価格の動き ③ 取引先の様子
④ 競争相手の様子 ⑤ それ以外 ()

質問 6-2 質問 6-1 の回答内容について具体的に説明してください。

質問 7 貴店(貴社)の売上の動き等からみて、貴業界の小山市における 2022 年下半期(7~12 月期)の売上高(生産高)の見通しをお伺いします。2022 年上半期(1~6 月期)と比べて、季節的要因を除いて、2022 年下半期(7~12 月期)の売上高(生産高)は増加すると思いますか。(売上高の先行き)

- ① 増加する ② やや増加する ③ 変わらない ④ やや減少する ⑤ 減少する

質問 8 質問 7 でそのように回答した理由を教えてください。

質問 9 貴店(貴社)の販売価格の動き等からみて、貴業界の小山市における 2022 年下半期(7~12 月期)の販売価格の見通しをお伺いします。2022 年上半期(1~6 月期)と比べて、2022 年下半期(7~12 月期)の販売価格はどうなると思いますか。(価格見通し)

- ① 上昇する ② やや上昇する ③ 変わらない ④ やや低下する ⑤ 低下する

質問 10 貴店(貴社)の雇用(従業員)の状況等からみて、貴業界の小山市における 2022 年下半期(7~12 月期)の雇用状況の見通しをお伺いします。2022 年上半期(1~6 月期)と比べて、2022 年下半期(7~12 月期)の雇用状況はどうなると思いますか。(雇用見通し)

従業員が

- ① 不足する ② やや不足する ③ 横ばい ④ やや過剰となる ⑤ 過剰となる

質問 11 貴店（貴社）あるいは貴業界における資金繰りの状況をお伺いします。貴店（貴社）の2022 上半期（1～6 月期）における資金繰りは、2021 年下半期（7～12 月期）にくらべて改善しましたか、悪化しましたか。

- ① 改善した ② やや改善した ③ どちらともいえない ④ やや悪化した ⑤ 悪化した

質問 12 質問 11 でそのように回答した理由をあげてください。（あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可）

- ① 売上高の変化 ② 設備資金需要の変化 ③ 仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化
④ 人件費の変化 ⑤ 金融機関の貸出態度の変化 ⑥ 金融政策、金利の変化
⑦ その他（具体的に: _____)

質問 13 貴店（貴社）における令和 3 年度の主な従業員の賃金等の状況をお伺いします。（あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可）

- ① ベースアップを実施 ② ボーナスの実施 ③ 定期昇給を実施 ④ ボーナスの増額
⑤ ボーナス以外の手当の増額 ⑥ 定期給与・ボーナス等の変更なし ⑦ 定期給与の引下げ
⑧ ボーナスの減額 ⑨ ボーナス以外の手当の減額 ⑩ その他（ _____)

質問 14 質問 13 でそのように回答した具体的内容・理由を記入してください。

質問 15 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関して、2022 年上半期（1～6 月期）には貴社(貴店)、貴業界はどのような影響を受けましたか。質問 15-1～3 に回答してください。

（あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可）

質問 15-1 供給面への影響

- ① コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ ② 商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った
③ コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ
④ 原材料・部品の入手の状況はコロナ禍前に戻った ⑤ コロナ禍前に比べ供給能力が増加した
⑥ 供給能力はコロナ禍前の状況に回復した ⑦ 供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない
⑧ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
⑨ その他(具体的に: _____)

質問 15-2 営業・勤務形態等への影響

- ① コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ
- ② コロナ禍前の営業時間に戻った
- ③ コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ
- ④ 従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った
- ⑤ コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている
- ⑥ 勤務形態はコロナ禍前のものに戻った
- ⑦ コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ
- ⑧ コロナ禍前と比べ業態転換が進んだ
- ⑨ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑩ その他(具体的に: _____)

質問 15-3 需要への影響

- ① コロナ禍前に比べ需要全体が減少した
- ② コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した
- ③ 全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した
- ④ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が増加した
- ⑤ コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した
- ⑥ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑦ その他(具体的に: _____)

質問 16 質問 15 でそのように回答した具体的内容・理由を記入して下さい。

質問 17 最近の為替レートの動きに関して、質問 17-1～17-3 に回答してください。

質問 17-1 円安ドル高は貴社(貴店)にとってプラスに働きますか、マイナスに働きますか。

- ① プラス
- ② マイナス
- ③ プラス・マイナス両方
- ④ 影響はない

質問 17-2 質問 17-1 で①、②、③のいずれかに回答した方にお尋ねします。貴社(貴店)にとって望ましい円相場は 1 ドル何円ですか。以下の空欄に数値を記入してください。

1 ドル				円
------	--	--	--	---

質問 17-3 最近の為替レートの動きや政府・中央銀行の対応についてご意見がありましたら記載してください。

[フェースシート]

小山市経済動向実態調査以外の目的には一切使用いたしませんので、下記の項目にご記入いただきますようお願い申し上げます。

1. 貴店(貴社)のお名前

2. 貴店(貴社)の主とする業種(小山市にある事業所(店舗)で取り扱っている業種)は何ですか。最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① 流通業(小売業) ② 製造業 ③ 金融・保険業 ④ 運輸業 ⑤ ホテル・旅館業
- ⑥ 飲食業 ⑦ 通信・放送業 ⑧ 不動産・住宅業 ⑨ サービス業 ⑩ 印刷業
- ⑪ その他(具体的に: _____)

3. 貴店(貴社)の従業者数(パート・アルバイトを含む) (小山市の事業所(店舗)における従業者)

						人
--	--	--	--	--	--	---

4. 貴店(貴社)の年間売上げ (小山市の事業所(店舗)における売上げ(概数で結構です))

				億					万円
--	--	--	--	---	--	--	--	--	----

5. 貴店(貴社)の小山市の店舗 (事業所)における売上げのうち、小山市内の企業、消費者からの需要の割合はおよそどのくらいですか。一つ選んで○をつけてください。

- ① 80~100% ② 60~79% ③ 40~59% ④ 20~39% ⑤ 0~19%

6. 調査の回答に関する連絡先

ご担当者名:

ご住所:

電話番号:

E-mail:

(お忙しいところご協力どうもありがとうございました。ご回答いただきました方には、次回調査時に今回の調査結果とともに、些少なからクオカード (1000 円) をお送りいたします。)

「小山市経済動向実態調査」
委託元 小山市経済部商業観光課
調査受託 白鷗大学ビジネス開発研究所
電話 : 0285-20-8900(大学・代表)
0285-20-8125(研究所)
Fax : 0285-22-8989
調査担当 (西谷、高木、八尾、櫻庭)

ii. 小山市景気動向アンケート調査(令和4年度第1回)の回答一覧

選択回答 質問1~10

No	質問1	質問 2-1	質問 3	質問 5	質問 6-1 (BtoC)	質問 6-1 (BtoB)	質問 7	質問 9	質問 10
1	3	5	3	5	-	1	2	2	3
2	2	2	3	2	1, 4	-	3	3	3
3	3	2, 3	2	2	2, 4, 5	4	2	2	3
4	3	2	3	3	5	3	3	2	3
5	5	2	3	3	-	1	3	3	3
6	5	2	3	5	1, 4	2, 3	5	3	3
7	4	5	3	4	6	4	3	4	3
8	3	2	3	2	1	-	3	3	3
9	3	2	3	3	1	1	3	2	2
10	1	1	1	1	1	3	2	1	1
11	4	2	4	4	-	1, 2	4	4	3
12	3	1	4	4	4	1	4	4	3
13	2	6	2	-	-	-	-	-	3
14	5	2	2	4	-	2	3	3	3
15	4	1	4	4	-	1	4	4	-
16	4	2	3	3	1	1	3	3	3
17	5	1	5	4	1	1	5	1	1
18	3	2	3	3	2	1	3	3	3
19	1	3	3	1	4	2	4	3	3
20	4	5	3	4	6	-	3	2	3
21	4	6	2	4	2	1	2	2	-
22	3	1	3	3	-	3	4	2	2
23	4	5	3	4	-	4	2	2	3
24	2	5	2	2	1	4	2	2	2
25	3	2	3	3	-	1	3	2	3
26	3	1	4	1	-	1	1	1	2
27	3	2	3	3	1	2	3	2	2
28	3	2	4	3	-	1	3	2	4
29	5	2	5	2	1, 3	-	5	5	1
30	3	1	3	3	2	1	3	3	2
31	3	3	4	3	-	2	3	3	2

32	3	3	3	3	1	1	3	3	3
33	3	2	4	3	2	-	3	3	3
34	3	1	3	4	-	1	2	3	3
35	3	2, 3	4	4	5	1, 2, 3	4	4	3
36	3	2	3	3	2	1	3	3	3
37	3	1	3	3	-	-	3	3	3
38	2	2	2	2	-	1	2	1	3

選択回答 質問 11~15

No	質問 11	質問 12	質問 13	質問 15-1	質問 15-2	質問 15-3	質問 17-1
1	5	3	2, 3	8	9	6	2
2	3	6	3, 4	3	1	4	3
3	3	1, 2	10	-	6	1	2
4	4	3	6	2	4	3	4
5	5	1, 7	2	9	9	1	2
6	5	1, 3	6	7	2	1	4
7	2	4	9	3	3	1	2
8	3	3, 4	3, 4	1	3	2	2
9	4	2, 3	3	8	2, 7, 8	5	3
10	4	3, 4	3	1	4	3	2
11	3	6	6	1, 7	1	1	4
12	4	3	6	8	9	2	4
13	2	1	1, 3, 4	8	5	6	2
14	4	3	6	3	9	2	3
15	3	1, 3, 4	1, 2	4, 7	2, 4, 5	4	3
16	3	1	2	1	2	1	4
17	4	2, 4	5	7	8	1	2
18	3	3	2, 3	4	9	1	-
19	3	3	3	8	9	2	-
20	3	4	3, 6	1, 7	1, 5, 7	1	2
21	3	3, 7	-	7	-	1	2
22	4	1, 3	2, 3	1	10	6	2
23	4	1, 4	10	2	4, 7	1, 2	4
24	2	4	2	7	1, 3	1	2
25	3	1, 2, 4	2, 3	1	3	1	4
26	1	1	2, 4	8	9	6	1
27	3	3	6	1, 7	2, 7	1	4
28	3	1, 3	1, 2	1	9	6	4
29	5	1, 3	5	1, 3	1, 3	1	2
30	3	1, 3	8	7	1	1	2
31	1	6	2, 3	8	5	3	3
32	3	6	3	2	4, 6	3	4
33	2	1	6	4	6	3	3
34	4	3	2, 3	8	5	6	4
35	3	1	2, 3	8	2, 4, 10	1	3

36	3	1, 4	1	2	1	1	2
37	3	-	1, 2, 3	8	5	6	4
38	3	3	1, 2	2	9	2	4

記述回答 質問 1、2

No	質問1	質問 2-1	質問 2-1 その他	質問 2-2
1	3	5		来工された営業との雑談で変化があるような感じではなかったため。
2	2	2		新車販売の原材料不足での供給遅れ
3	3	2, 3		足元の外部環境の変化(ウクライナ情勢、原油資源高など)により影響が出始めている。または今後の影響が予想される。
4	3	2		
5	5	2		仕事の依頼が少ない
6	5	2		
7	4	5		
8	3	2		入客数、売上、供に停滞している
9	3	2		小売店の販売状況(卸業務有り)
10	1	1		3月より稼働率が伸びています(前年比20%増)
11	4	2		3月年度末以降注文がない
12	3	1		少なくとも飲食店等にお客様が戻ったように見えます。
13	2	6		
14	5	2		売上額が減少している
15	4	1		人出は以前に比べて増えたが、日によって波が大きく安定しているとは言えないので
16	4	2		
17	5	1		お客様の減少
18	3	2		以前(コロナ流行前)の状況に戻ったわけではないが、コロナ流行ピーク時よりは、徐々に回復傾向にあるように感じる。
19	1	3		例年より取引単価が高い案件が多かった
20	4	5		競合出店に伴うマーケット環境の激化
21	4	6	行事が少ない	各種スポーツや団体等の行事が縮小されています。
22	3	1		コロナの影響は続いているが、人出は増えたように思われる。コロナ・ウクライナ情勢、円安の影響か、景気が良いという実感はない。
23	4	5		あまり人の動きが少ないと思う
24	2	5		人の動きが少しずつ増加している。出張など宿泊客が増加してきた。
25	3	2		コロナ禍の影響が落ち着かない。
26	3	1		
27	3	2		お客様の来店のがんが長くなっている。

28	3	2		
29	5	2		取引先等の方とお話しをした時に以前(コロナ前)沢山取引や卸しがあったところが 8~9 割減ったとお話を伺いました。
30	3	1		コロナ禍での人流の動き
31	3	3		急激な為替レート変動による影響
32	3	3		
33	3	2		
34	3	1		コロナ感染が落ち着き、規制緩和もされているが、コロナ流行前と比べ、人出が少ないため
35	3	2, 3		・売上の増加に繋がっていない ・インフレ
36	3	2		卸売の飲食店の購入量が減っている為
37	3	1		コロナの影響
38	2	2		設備投資の案件が多くある

記述回答 質問 3、4

No	質問 3	質問 4
1	3	人出は多少増えているが、物価高の影響もあり、変わらないと思う。
2	3	新車の供給不足がすぐに解消しないため
3	2	新型コロナの流行の拡大は懸念されるものの、底堅い消費動向と企業の業績改善努力により景気回復の兆しも目に見え始める。
4	3	
5	3	仕事が多くなる気配がない
6	3	
7	3	
8	3	コロナの影響がぬぐえない為
9	3	活気がない
10	1	現在の状況が続くと思われま
11	4	7月になっても状況が変わらない
12	4	物価高
13	2	
14	2	コロナ対策などをしながら徐々に普段に戻っていくと感じる
15	4	インフレがさらに進行し、生活費を圧迫し、購買意欲が低下し、景気に悪影響を及ぼす
16	3	
17	5	ウクライナ問題、コロナ禍、円安 etc.
18	3	コロナの状況は変わらないが、人流は活発になってきている。その一方で物価が高騰しているため、景気が良くなると思えない。
19	3	
20	3	コロナ規制緩和による上昇(+要因)VS 物価高に伴うインフレ志向上昇(-要因)
21	2	国体等もありますので、秋の行事についても少しは向上してくるのではないかと期待しています。
22	3	プラス要因が見つからないが、大きな要因も見つからない。
23	3	それほど期待できないと思う
24	2	とちぎ国体の開催により、宿泊されるお客様が見込まれる。
25	3	物価高の問題が出てきている。
26	4	
27	3	
28	4	コロナの影響
29	5	7月に入って、急激にコロナ感染者が増え過去最高になっているため。
30	3	栃木国体による特需に期待したが、オミクロン BA5 による感染拡大や物価上昇による買い控え等により期待できない。
31	4	

32	3	
33	4	コロナの影響が不安
34	3	今後、コロナ第7派、8派と感染拡大が考えられるため
35	4	・インフレ ・コロナの再拡大 ・ウクライナ問題
36	3	すぐには良くならないと思う。2～3年かかる。
37	3	コロナの新たな変異株が次々と出てきているので
38	2	年末に向け大型工事案件を予定している

記述回答 質問 5、6-1

No	質問 5	質問 6-1 (BtoC)	質問 6-1 (BtoB)	質問 6-2
1	5	-	1	出荷量が減少している
2	2	1, 4	-	販売に関して値引きしない形でも価格高騰もあり、購入に至っていない。
3	2	2, 4, 5	4	
4	3	5	3	
5	3	-	1	受注量が増えない
6	5	1, 4	2, 3	
7	4	6	4	
8	2	1	-	昨年未から来客は徐々に増加
9	3	1	1	BtoC は低下(又は変わらない)BtoB は上昇傾向、これは弊社の戦略によるものでもある。
10	1	1	3	客室稼働率の上昇=収入の増となっています。
11	4	-	1, 2	物価上昇で買い控えている様子
12	4	4	1	仕入価格が全体的に上昇しているため
13		-	-	取引がないため
14	4	-	2	製造業が不景気の波にあるため
15	4	-	1	材料の値上げで見た目はさほど変わらないが実質はマイナスである
16	3	1	1	
17	4	1	1	乗客の減少
18	3	2	1	
19	1	4	2	
20	4	6	-	競合出店+節約志向上昇(特に食品)
21	4	2	1	企業内の行事は例年通り行われている。
22	3	-	3	当社の製品は畑作向け農業機械のため、基本的に季節的要因に左右されます。季節的要因を取り除いて考えると、変わらないと思います。
23	4	-	4	
24	2	1	4	コロナの規制が緩和され、飲食、宿泊者の利用が増加してきた。
25	3	-	1	停滞している。
26	1	-	1	
27	3	1	2	
28	3	-	1	お客様の状況
29	2	1, 3	-	
30	3	2	1	コロナ禍の中、人出が少ない。
31	3	-	2	海外仕入れ商品の価格上昇(円安による)と海外運賃の高騰

32	3	1	1	
33	3	2	-	
34	4	-	1	受注量の減少、鋼材等の諸資材、原油価格が高騰しているため
35	4	5	1, 2, 3	・慎重な様子が見られる ・積極的な活動が見られない
36	3	2	1	
37	3	-	-	
38	2	-	1	アルミ溶解工場からの受注が増えた

記述回答 質問 7、8

No	質問 7	質問 8
1	2	契約料はある程度残っており前半に減った分が後半にずれ込むと思う。
2	3	現状と環境は改善されないため
3	2	自動車販売業の回復のきざし
4	3	
5	3	配達等(宅配)の案件は増加している(BtoC)が、BtoB の案件は減少の一途をたどっていて、回復する気配がない。
6	5	
7	3	
8	3	コロナの影響
9	3	小山市としての経済に関する戦略がみえない
10	2	国体という大きなイベントがあるので、経済効果があると考えられます。
11	4	扱い商品が 10%以上値上がりすることでユーザーが買い控えている。
12	4	全体的に物価が上がっていくと思います。
13	-	取引がない
14	3	通年、業務内容が変わらないため
15	4	材料高、資料燃料等の値上げに対し、顧客先は部品不足などで発注量が減少か横ばいのため
16	3	
17	5	コロナ禍の再発生
18	3	コロナの状況は変わらないが、人流は活発になってきている。その一方で物価が高騰しているため、景気が良くなると思えない。
19	4	
20	3	質問4と同じ
21	2	コロナの問題が緩和されると思います。
22	4	質問 6-2 と同様なのですが、高齢化の影響で農業機械の需要が減っていくことも考えられるため。
23	2	期待を込めて
24	2	コロナ感染者の減少と、コロナ感染に対する意識に変化が見られるため
25	3	
26	1	
27	3	
28	3	特に新しい動きがない
29	5	④と応えている時(夜 22 時)でしたが、この日、事前予約を受けていたお客様より立て続けにキャンセルが相次いだ。(コロナ感染者が過去最高の日でした)
30	3	コロナオミクロン BA5 の感染拡大、物価上昇

31	3	
32	3	
33	3	
34	2	受注量、生産量の増加が見込まれているため
35	4	インフレ
36	3	
37	3	
38	2	大型工事案件あり

記述回答 質問 11、12

No	質問 11	質問 12	質問 12 その他
1	5	3	
2	3	6	
3	3	1, 2	
4	4	3	
5	5	1, 7,	運転資金の枯渇
6	5	1, 3	
7	2	4	
8	3	3, 4	
9	4	2, 3	
10	4	3, 4	
11	3	6	
12	4	3	
13	2	1	
14	4	3	
15	3	1, 3, 4	
16	3	1	
17	4	2, 4	
18	3	3	
19	3	3	
20	3	4	
21	3	3, 7	値上がりが多いです
22	4	1, 3	
23	4	1, 4	
24	2	4	
25	3	1, 2, 4	
26	1	1	
27	3	3	
28	3	1, 3	
29	5	1, 3	
30	3	1, 3	
31	1	6	
32	3	6	
33	2	1	
34	4	3	

35	3	1	
36	3	1, 4	
37	3	-	
38	3	3	

記述回答 質問 13、14

No	質問 13	質問 13 その他	質問 14
1	2, 3		ボーナスは利益率で決定・定昇は規定により毎年実施
2	3, 4		業績連動型のボーナスとなっている
3	10	人事制度の見直し	
4	6		
5	2		売上が伸びない中、ボーナスを出すのも苦しいが、コロナの大変な中、仕事に従事してくれている従業員に対して、ボーナスを支給した。
6	6		
7	9		
8	3, 4		人材不足のため
9	3		給与を引上げしていゆきたい
10	3		特にありません
11	6		どんな状況でも変更なし。
12	6		来年はムリかもしれない。
13	1, 3, 4		①③賃金構造基本統計調査と連動させているため、④業況判断から
14	6		売上は減少しているが、人員不足もあるため何とか現状維持したいため
15	1, 2		コロナ禍で従業員の退職やモチベーションの低下が見られ、一方で経費減や業況の多少の回復があったので、モチベーション維持のため
16	2		
17	5		社員の賃金の保障
18	2, 3		
19	3		
20	3, 6		
21	-		
22	2, 3		会社にとってプラス要因はあまり無く、ボーナス・昇給の実施は厳しいが、従業員を守るために実施。
23	10	正規社員雇用が大幅アップ	パートさんが多かったから。正規社員だと厚生年金、雇用保険など会社負担が大きくなった。
24	2		雇用の維持
25	2, 3		
26	2, 4		

27	6		
28	1, 2		
29	5		アルバイトの子たち等は、急なキャンセル等でお休みになったりしてしまうため、確実な出勤ができる日は‘大入り’や気持付けで手当てをプラスします。
30	8		コロナ禍で売上が減少しているため
31	2, 3		
32	3		
33	6		
34	2, 3		利益の一部を従業員へ還元、士気向上のため
35	2, 3		・業績を鑑みたボーナス支給
36	1		3%のベースアップ
37	1, 2, 3		従業員のモチベーション維持、向上につながるものと考え実施した。
38	1, 2		新入社員募集に合せ、社内の給与を見直し(増額)

記述回答 質問 15

No	質問 15-1	質問 15-1 9 の回答	質問 15-2	質問 15-2 10 の回答	質問 15-3
1	8		9		6
2	3		1		4
3			6		1
4	2		4		3
5	9	弊社は運送業なので、供給という 意味では運転手のなり手になると 思われるが、コロナ関係なく、ドラ イバーのなり手は減少の一途をた どっている。	9		1
6	7	原材料は大幅に UP してしまったり、 電気代がとて高くなってしま ったり、コロナによりお客様の発注 数が大幅に減ってしまったままで ある。(注: 7 に対する意見)	2		1
7	3		3		1
8	1		3		2
9	8		2, 7, 8		5
10	1		4		3
11	1, 7		1		1
12	8		9		2
13	8		5		6
14	3		9		2
15	4, 7		2, 4, 5		4
16	1		2		1
17	7		8		1
18	4		9		1
19	8		9		2
20	1, 7		1, 5, 7		1
21	7				1
22	1		10	部品入荷遅延のため、一部製造ラ インの休業を実施	6

23	2		4, 7		1, 2
24	7		1, 3		1
25	1		3		1
26	8		9		6
27	1, 7		2, 7		1
28	1		9		6
29	1, 3		1, 3		1
30	7		1		1
31	8		5		3
32	2		4, 6		3
33	4		6		3
34	8		5		6
35	8		2, 4, 10	集合会議の減少	1
36	2		1		1
37	8		5		6
38	2		9		2

記述回答 質問 16

No	質問 16
1	業界的に影響はほとんどなく、また、社内での陽性者も少なかった。
2	
3	
4	
5	弊社のお客様は工場関係が多く、円安や物価(原材料)の高騰に伴い、生産が落ちている傾向がある。それによって荷物が出なくなり、結果、運送の需要が減っている。
6	
7	
8	売上比率で一部部門の売上が減少した状態
9	
10	コロナ禍で停まっていた企業の設備投資が始まり、その関係の方の宿泊が増えています。+従来のビジネスがほぼ元に戻りました。
11	商品が動かない。
12	人が集まる機会が少なくなったので、その分注文が入らないため。
13	
14	建機関連の運搬が著しく減少した
15	まだ全面手金は戻っていないが、一部では回復している
16	
17	乗客の減少が止まらない
18	イベント等の中止により、受注量が減少した。
19	
20	テレワーク等による駅利用者の減少
21	受注量の減少
22	農業機械のため、コロナの影響は需要の面ではあまりありません。
23	当社は化粧品関係の仕事なので、マスクを付けている関係で非常に影響はある。
24	長期化したコロナの影響により、会食等のあつまりごとを手控える風潮が定着している。
25	
26	
27	
28	
29	仕入価格、原材料や燃料の高騰で商品提供するのも厳しい状況です。
30	コロナ禍の為、飲み会の減少により夜間の車両を減車。イベントの中止の為、日曜・祝日の昼夜共に減車。
31	
32	

33	
34	コロナ感染防止対策として、時差出勤、テレワーク導入を行っている。
35	・マインドがネガティブになっている ・支出をおさえる傾向が強い
36	受注量の減少
37	
38	会社内部のコロナの影響はほとんどなかったが、客先の発注に影響があった

記述回答 質問 17

No	質問 17-1	質問 17-2	質問 17-3
1	2	100 円	
2	3	不明	
3	2	115 円	
4	4		
5	2	110 円	
6	4		
7	2		
8	2	110 円	
9	3	115 円	
10	2	110 円	
11	4		
12	4		物価高を受け入れたつもりはない。
13	2	130 円	
14	3	110 円	
15	3	110 円	
16	4		
17	2	100 円	
18	-		
19	-		
20	2	110 円	
21	2	110 円	ガソリンの値上がりが困っています。
22	2	108 円	
23	4		
24	2	110 円	
25	4		
26	1		
27	4		
28	4		
29	2		
30	2	110 円	

31	3	110 円	日本ではデフレーション脱却の為、長く低金利政策を継続しています。結果が出ないまま外的要因によって物価が上がってしまいました。勤労所得が上がらないままの状態では、ますます購買力が低下してしまいます。昨今、アメリカではラーメンが一杯¥3000 と聞きますが、所得が上がっているために、大した問題になりません。バブル崩壊後の資金繰りで受けたトラウマから抜ける事の出来ない中、経営者には給与改善に力を入れられません。大企業は押しなべて好決算から国の税況も増加しています。率先した行動を期待します。
32	4	110 円	
33	3		1ドル何円というよりも、急激な円安で顧客対応が大変。米の金利が上昇しているのでその部分ではプラス。
34	4		
35	3	110 円	<ul style="list-style-type: none"> ・中央銀行の対応に疑問を感じる ・世界で日本だけ取り残されるか心配 ・人口減少に対する取組が必要
36	2	120 円	
37	4		
38	4		

iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)

質問1 小山市の景気の現状(水準)

				良い	やや良い	どちらとも いけない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回	令和	4年	1~6月	5.3	10.5	52.6	18.4	13.2	0.0	44.1
前回		3年	7~12月	0.0	12.8	41.0	28.2	17.9	0.0	37.2
前々回		3年	1~6月	0.0	8.7	19.6	60.9	10.9	0.0	31.5
第37回		2年	7~12月	0.0	9.1	13.6	43.2	34.1	0.0	24.4
第36回		2年	1~6月	0.0	0.0	6.5	28.3	65.2	0.0	10.3
第35回		元年	7~12月	0.0	11.8	35.3	45.1	5.9	2.0	38.5
第34回		元年	1~6月	2.2	10.9	47.8	37.0	0.0	2.2	44.5
第33回	平成	30年	7~12月	2.2	24.4	55.6	13.3	4.4	0.0	51.6
第32回		30年	1~6月	0.0	31.6	55.3	10.5	0.0	2.6	55.4
第31回		29年	7~12月	0.0	32.6	58.1	4.7	4.7	0.0	54.7
第30回		29年	1~6月	0.0	17.0	59.6	19.1	4.3	0.0	47.3
第29回		28年	7~12月	0.0	14.6	47.9	31.3	6.3	0.0	42.7
第28回		28年	1~6月	0.0	9.3	64.8	20.4	5.6	0.0	44.5
第27回		27年	7~12月	0.0	21.7	56.5	21.7	0.0	0.0	50.0
第26回		27年	1~6月	0.0	22.4	49.0	20.4	8.2	0.0	46.4
第25回		26年	7~12月	0.0	10.9	50.0	32.6	6.5	0.0	42.7
第24回		26年	1~6月	2.0	16.0	54.0	16.0	8.0	4.0	46.9
第23回		25年	7~12月	2.0	28.6	49.0	16.3	4.1	0.0	52.0
第22回		25年	1~6月	0.0	18.5	48.1	31.5	1.9	0.0	45.8
第21回		24年	7~12月	0.0	4.1	44.9	34.7	16.3	0.0	34.2
第20回		24年	1~6月	0.0	14.6	29.2	43.7	12.5	0.0	36.7
第19回		23年	7~12月	1.8	9.2	25.5	45.5	18.0	0.0	32.8
第18回		23年	1~6月	0.0	1.9	15.4	50.0	30.8	1.9	22.0
第17回		22年	7~12月	0.0	6.7	33.3	40.0	20.0	0.0	31.7
第16回		22年	1~6月	0.0	10.4	27.1	39.6	22.9	0.0	31.3
第15回		21年	7~12月	0.0	2.1	4.2	41.7	52.0	0.0	14.1
第14回		21年	1~6月	0.0	1.8	1.8	38.6	57.8	0.0	11.9
第13回		20年	7~12月	0.0	0.0	4.3	36.2	59.5	0.0	11.2
第12回		20年	1~6月	0.0	2.2	13.3	66.7	17.8	0.0	25.0
第11回		19年	7~12月	0.0	0.0	38.3	53.2	8.5	0.0	32.5
第10回		19年	1~6月	0.0	23.1	45.2	27.9	3.8	0.0	46.9

第9回	18年	7~12月	0.0	20.8	35.4	33.3	10.5	0.0	41.6
第8回	18年	1~6月	0.0	25.5	53.2	14.9	6.4	0.0	49.5
第7回	17年	7~12月	0.0	28.9	44.4	22.2	4.5	0.0	49.4
第6回	17年	1~6月	0.0	14.6	29.3	51.0	5.1	0.0	38.4
第5回	16年	7~12月	0.0	12.5	27.5	42.5	17.5	0.0	33.8
第4回	16年	1~6月	0.0	16.7	38.1	33.3	11.9	0.0	39.9
第3回	15年	7~12月	0.0	12.0	18.0	40.0	30.0	0.0	28.0
第2回	15年	1~6月	1.6	0.0	16.4	44.3	37.7	0.0	20.9
初回	14年	7~12月	0.0	1.2	7.4	37.0	54.4	0.0	13.9

質問3 小山市の景気の先行き(来半期見通し)

見通し対象時期				良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回	令和	4年	7~12月	2.6	15.8	55.3	21.1	5.3	0.0	47.4
前回		4年	1~6月	5.1	53.8	28.2	7.7	2.6	2.6	63.2
前々回		3年	7~12月	2.2	43.5	39.1	13.0	2.2	0.0	57.6
第37回		3年	1~6月	0.0	13.6	38.6	34.1	13.6	0.0	38.1
第36回		2年	7~12月	6.5	23.9	28.3	17.4	19.6	4.3	44.9
第35回		2年	1~6月	0.0	15.7	56.9	25.5	0.0	2.0	47.6
第34回		元年	7~12月	2.2	10.9	54.3	28.3	2.2	2.2	45.6
第33回	平成	元年	1~6月	0.0	31.1	57.8	11.1	0.0	0.0	55.0
第32回		30年	7~12月	2.6	15.8	68.4	13.2	0.0	0.0	52.0
第31回		30年	1~6月	0.0	39.5	53.5	7.0	0.0	0.0	58.1
第30回		29年	7~12月	0.0	19.1	63.8	14.9	2.1	0.0	50.0
第29回		29年	1~6月	0.0	24.5	61.2	12.2	2.0	0.0	52.0
第28回		28年	7~12月	1.9	11.1	53.7	29.6	3.7	0.0	44.5
第27回		28年	1~6月	0.0	21.7	60.9	17.4	0.0	0.0	51.1
第26回		27年	7~12月	0.0	30.6	55.1	12.3	2.0	0.0	53.6
第25回		27年	1~6月	0.0	26.1	45.7	21.7	4.3	2.2	48.9
第24回		26年	7~12月	0.0	24.0	46.0	26.0	4.0	0.0	47.5
第23回		26年	1~6月	4.1	28.6	42.9	22.4	2.0	0.0	52.6
第22回		25年	7~12月	1.9	37.0	50.0	7.4	3.7	0.0	56.5
第21回		25年	1~6月	2.0	36.7	42.9	14.3	4.1	0.0	54.6
第20回		24年	7~12月	0.0	20.8	43.8	27.1	8.3	0.0	44.3
第19回		24年	1~6月	0.0	16.4	47.3	27.3	7.3	1.7	43.6
第18回		23年	7~12月	3.8	21.2	38.5	23.1	13.4	0.0	44.7
第17回		23年	1~6月	0.0	6.7	64.4	24.4	4.5	0.0	43.3
第16回		22年	7~12月	2.1	29.2	52.1	6.3	8.3	2.0	52.7
第15回		22年	1~6月	0.0	8.3	37.5	33.3	20.9	0.0	33.3
第14回		21年	7~12月	1.8	17.5	36.8	27.2	14.9	1.8	40.9
第13回		21年	1~6月	0.0	0.0	10.6	12.8	74.5	2.1	8.7
第12回		20年	7~12月	0.0	2.2	13.3	68.9	15.6	0.0	25.5
第11回		20年	1~6月	0.0	8.5	42.6	42.6	4.3	2.0	39.1
第10回		19年	7~12月	1.9	19.2	58.7	20.2	0.0	0.0	50.7
第9回		19年	1~6月	2.1	25.0	58.3	10.4	4.2	0.0	52.6
第8回		18年	7~12月	0.0	31.9	51.1	17.0	0.0	0.0	53.7
第7回		18年	1~6月	2.2	51.1	40.0	6.7	0.0	0.0	62.2

第6回	17年	7~12月	0.0	17.1	48.8	26.8	7.3	0.0	43.9
第5回	17年	1~6月	0.0	9.8	41.5	43.9	4.8	0.0	39.1
第4回	16年	7~12月	0.0	33.3	50.0	11.1	5.6	0.0	52.8
第3回	16年	1~6月	0.0	18.0	32.0	34.0	16.0	0.0	38.0
第2回	15年	7~12月	1.6	3.3	47.5	32.8	14.8	0.0	36.0
初回	15年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問 5 業界の小山市における売上（売上金額の増減）

				増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	令和	4年	1~6月	7.9	15.8	39.5	28.9	5.3	2.6	48.0
前回		3年	7~12月	0.0	23.1	43.6	20.5	10.3	2.6	45.4
前々回		3年	1~6月	0.0	23.9	37.0	30.4	8.7	0.0	44.0
第37回		2年	7~12月	0.0	20.5	31.8	22.7	22.7	2.3	37.8
第36回		2年	1~6月	2.2	8.7	10.9	32.6	45.7	0.0	22.3
第35回		元年	7~12月	0.0	13.7	35.3	43.1	3.9	3.9	40.3
第34回		元年	1~6月	4.3	15.2	39.1	30.4	8.7	2.2	43.8
第33回	平成	30年	7~12月	4.4	22.2	48.9	20.0	2.2	2.2	51.6
第32回		30年	1~6月	0.0	23.7	50.0	23.7	2.6	0.0	48.7
第31回		29年	7~12月	2.3	25.6	51.2	16.3	4.7	0.0	51.2
第30回		29年	1~6月	2.1	14.9	55.3	25.5	2.1	0.0	47.3
第29回		28年	7~12月	0.0	10.2	59.2	28.6	2.0	0.0	45.4
第28回		28年	1~6月	0.0	20.4	44.4	24.1	11.1	0.0	44.5
第27回		27年	7~12月	0.0	23.9	50.0	21.7	4.3	0.0	49.4
第26回		27年	1~6月	2.0	16.3	47.0	26.5	6.1	2.0	45.4
第25回		26年	7~12月	2.2	10.9	47.8	32.6	6.5	0.0	43.3
第24回		26年	1~6月	2.0	22.0	30.0	30.0	14.0	2.0	41.8
第23回		25年	7~12月	8.2	30.6	36.7	16.3	8.2	0.0	53.6
第22回		25年	1~6月	1.9	18.5	37.0	37.0	3.7	1.9	44.4
第21回		24年	7~12月	0.0	10.2	36.7	30.6	20.4	2.1	34.3
第20回		24年	1~6月	2.1	20.8	33.3	29.2	14.6	0.0	42.4
第19回		23年	7~12月	7.3	27.3	18.2	29.1	16.3	1.8	45.0
第18回		23年	1~6月	0.0	3.8	17.3	46.2	30.8	1.9	23.5
第17回		22年	7~12月	4.4	20.0	42.2	24.4	9.0	0.0	46.6
第16回		22年	1~6月	2.1	20.8	33.3	27.1	14.6	2.1	42.0
第15回		21年	7~12月	2.1	4.2	29.2	39.6	24.9	0.0	29.8
第14回		21年	1~6月	1.8	3.5	10.5	49.1	33.3	1.8	22.4
第13回		20年	7~12月	0.0	0.0	14.9	42.6	38.2	4.3	18.9
第12回		20年	1~6月	0.0	6.7	26.7	46.7	19.9	0.0	30.1
第11回		19年	7~12月	0.0	6.4	40.4	40.4	12.8	0.0	35.1
第10回		19年	1~6月	1.9	17.3	36.5	36.5	3.9	3.9	43.9
第9回		18年	7~12月	4.2	18.8	41.7	25.0	8.2	2.1	46.4
第8回		18年	1~6月	0.0	34.0	46.8	14.9	4.3	0.0	52.6
第7回		17年	7~12月	2.2	40.0	28.9	20.0	6.7	2.2	52.8
第6回		17年	1~6月	0.0	19.5	31.7	41.5	7.3	0.0	41.5

第5回	16年	7~12月	2.5	15.0	35.0	30.0	17.5	0.0	38.8
第4回	16年	1~6月	2.8	19.4	30.6	38.9	8.3	0.0	42.4
第3回	15年	7~12月	4.0	14.0	28.0	38.0	14.0	2.0	38.8
第2回	15年	1~6月	3.4	11.9	30.5	39.0	15.3	0.0	37.3
初回	14年	7~12月	2.5	8.6	21.0	28.4	37.0	2.5	27.2

質問 7 業界の小山市の売上高見通し(来半期の見通し)

見通し対象時期				増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	令和	4年	7~12月	2.6	21.1	50.0	15.8	7.9	2.6	48.6
前回		4年	1~6月	2.6	43.6	35.9	15.4	2.6	0.0	57.1
前々回		3年	7~12月	0.0	34.8	43.5	15.2	4.3	2.2	52.8
第37回		3年	1~6月	0.0	15.9	36.4	29.5	15.9	2.3	38.4
第36回		2年	7~12月	2.2	17.4	28.3	17.4	30.4	4.3	35.2
第35回		2年	1~6月	0.0	13.7	61.8	18.6	0.0	5.9	48.7
第34回		元年	7~12月	2.2	21.7	38.0	29.3	4.3	4.3	46.8
第33回		元年	1~6月	2.2	24.4	57.8	15.6	0.0	0.0	53.3
第32回	平成	30年	7~12月	5.3	15.8	63.2	15.8	0.0	0.0	52.7
第31回		30年	1~6月	0.0	30.2	53.5	14.0	2.3	0.0	52.9
第30回		29年	7~12月	0.0	10.6	66.0	19.1	4.3	0.0	45.7
第29回		29年	1~6月	0.0	18.4	61.2	18.4	2.0	0.0	49.0
第28回		28年	7~12月	5.6	22.2	44.4	22.2	5.6	0.0	50.0
第27回		28年	1~6月	0.0	17.4	50.0	28.3	2.2	0.0	45.1
第26回		27年	7~12月	0.0	18.4	55.1	24.5	2.0	0.0	47.5
第25回		27年	1~6月	0.0	23.9	43.5	23.9	6.5	2.2	47.4
第24回		26年	7~12月	2.0	18.0	44.0	28.0	6.0	2.0	45.4
第23回		26年	1~6月	2.0	26.5	44.9	16.3	10.2	0.0	48.4
第22回		25年	7~12月	1.9	33.3	48.1	9.3	5.5	1.9	54.3
第21回		25年	1~6月	2.0	32.7	34.7	18.4	10.2	2.0	49.5
第20回		24年	7~12月	0.0	16.7	39.6	27.1	14.5	2.1	39.9
第19回		24年	1~6月	0.0	18.2	50.9	23.6	7.3	0.0	45.0
第18回		23年	7~12月	3.8	13.5	40.4	28.8	11.6	1.9	42.1
第17回		23年	1~6月	4.4	15.6	57.8	17.8	4.4	0.0	49.5
第16回		22年	7~12月	0.0	27.1	47.9	10.4	10.4	4.2	48.9
第15回		22年	1~6月	0.0	10.4	39.6	31.3	18.7	0.0	35.4
第14回		21年	7~12月	1.8	17.5	31.6	35.1	12.2	1.8	40.2
第13回		21年	1~6月	0.0	2.1	14.9	19.1	59.6	4.3	14.4
第12回		20年	7~12月	0.0	4.4	24.4	53.3	17.9	0.0	28.8
第11回		20年	1~6月	0.0	10.6	44.7	38.3	6.4	0.0	39.9
第10回		19年	7~12月	1.9	23.1	57.7	13.5	0.0	3.8	53.5
第9回		19年	1~6月	2.1	29.2	39.6	16.7	6.2	6.2	51.2
第8回		18年	7~12月	2.1	21.3	59.6	10.6	4.3	2.1	51.6
第7回		18年	1~6月	0.0	35.6	42.2	13.3	4.5	4.4	53.5

第6回	17年	7~12月	0.0	22.0	51.2	26.8	0.0	0.0	48.8
第5回	17年	1~6月	2.5	17.5	27.5	40.0	10.0	2.5	40.4
第4回	16年	7~12月	0.0	19.4	58.3	13.9	2.8	5.6	50.0
第3回	16年	1~6月	2.0	18.0	34.0	30.0	12.0	4.0	41.7
第2回	15年	7~12月	0.0	10.0	43.3	31.7	15.0	0.0	37.1
初回	15年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問 9 来半期の販売価格見通し

見通し対象時期				上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回	令和	4年	7~12月	10.5	31.6	39.5	13.2	2.6	2.6	58.8
前回		4年	1~6月	2.6	38.5	48.7	7.7	0.0	2.6	59.2
前々回		3年	7~12月	4.3	15.2	58.7	15.2	4.3	2.2	50.0
第37回		3年	1~6月	2.3	6.8	59.1	22.7	6.8	2.3	43.6
第36回		2年	7~12月	0.0	6.5	56.5	19.6	17.4	0.0	38.0
第35回		2年	1~6月	0.0	19.6	55.9	18.6	0.0	5.9	50.3
第34回		元年	7~12月	2.2	17.4	52.2	23.9	0.0	4.3	49.5
第33回		元年	1~6月	0.0	13.3	71.1	13.3	13.3	0.0	48.9
第32回	平成	30年	7~12月	0.0	10.5	73.7	13.2	0.0	2.6	49.3
第31回		30年	1~6月	0.0	18.6	69.8	11.6	0.0	0.0	51.8
第30回		29年	7~12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回		29年	1~6月	0.0	21.3	61.7	10.6	2.1	4.3	51.7
第28回		28年	7~12月	0.0	9.3	64.8	18.5	3.7	3.7	45.7
第27回		28年	1~6月	2.2	13.0	63.0	19.6	2.2	0.0	48.4
第26回		27年	7~12月	0.0	18.4	65.3	14.3	0.0	2.0	51.0
第25回		27年	1~6月	0.0	22.9	58.3	12.5	4.2	2.1	50.5
第24回		26年	7~12月	2.0	20.0	62.0	12.0	2.0	2.0	52.0
第23回		26年	1~6月	4.1	22.4	47.0	20.4	4.1	2.0	50.5
第22回		25年	7~12月	0.0	25.9	51.9	14.8	1.8	5.6	52.0
第21回		25年	1~6月	2.0	16.3	51.0	22.5	4.1	4.1	46.3
第20回		24年	7~12月	0.0	10.4	47.9	35.4	6.3	0.0	40.6
第19回		24年	1~6月	0.0	9.1	50.9	30.9	5.5	3.6	41.5
第18回		23年	7~12月	0.0	7.7	46.2	36.5	5.8	3.8	39.5
第17回		23年	1~6月	0.0	11.1	51.1	35.6	2.2	0.0	42.8
第16回		22年	7~12月	0.0	12.5	54.2	31.3	2.0	0.0	44.3
第15回		22年	1~6月	0.0	4.2	39.6	41.7	14.5	0.0	33.4
第14回		21年	7~12月	1.8	10.5	43.9	29.8	10.5	3.5	40.5
第13回		21年	1~6月	0.0	4.3	23.4	40.4	29.8	2.1	25.6
第12回		20年	7~12月	4.4	17.8	25.6	43.3	6.7	2.2	41.4
第11回		20年	1~6月	2.1	16.0	43.6	29.8	4.2	4.3	45.3
第10回		19年	7~12月	1.9	17.3	50.0	26.9	2.0	1.9	47.5
第9回		19年	1~6月	2.1	18.8	54.2	16.7	4.1	4.1	49.6
第8回		18年	7~12月	0.0	25.5	46.8	21.3	2.1	4.3	50.0
第7回		18年	1~6月	0.0	26.7	46.7	20.0	4.4	2.2	49.5

第6回	17年	7~12月	0.0	14.6	48.8	29.3	0.0	7.3	46.0
第5回	17年	1~6月	0.0	8.1	45.9	40.5	5.5	0.0	39.2
第4回	16年	7~12月	0.0	8.3	61.1	22.2	5.6	2.8	43.5
第3回	16年	1~6月	0.0	12.0	38.0	40.0	6.0	4.0	38.8
第2回	15年	7~12月	0.0	8.6	32.8	48.3	10.3	0.0	34.9

(注) 販売価格見直しは第2回から実施

質問 10 来半期の雇用見通し

見通し対象時期				不足する	やや不足	横ばい	やや過剰	過剰	無回答	DI
今回	令和	4年	7~12月	7.9	18.4	65.8	2.6	0.0	5.3	58.3
前回		4年	1~6月	7.7	15.4	76.9	0.0	0.0	0.0	57.7
前々回		3年	7~12月	2.2	15.2	67.4	8.7	2.2	4.3	51.7
第37回		3年	1~6月	2.3	13.6	63.6	11.4	4.5	4.5	49.4
第36回		2年	7~12月	0.0	6.5	65.2	19.6	8.7	0.0	42.4
第35回		2年	1~6月	9.8	21.6	56.9	5.9	0.0	5.9	59.4
第34回		元年	7~12月	4.3	23.9	63.0	4.3	0.0	4.3	57.3
第33回		元年	1~6月	13.3	35.6	46.7	0.0	2.2	2.2	64.8
第32回	平成	30年	7~12月	2.6	21.1	65.8	7.9	0.0	2.6	54.7
第31回		30年	1~6月	7.0	30.2	60.5	2.3	0.0	0.0	60.5
第30回		29年	7~12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回		29年	1~6月	10.6	34.0	53.2	2.1	0.0	0.0	65.7
第28回		28年	7~12月	3.7	18.5	70.4	1.9	1.9	3.7	55.3
第27回		28年	1~6月	0.0	26.2	64.3	7.1	2.4	0.0	53.6
第26回		27年	7~12月	6.1	22.5	65.3	4.1	0.0	2.0	57.8
第25回		27年	1~6月	8.3	33.3	54.2	2.1	2.1	0.0	62.3
第24回		26年	7~12月	0.0	28.6	67.4	2.0	2.0	0.0	55.7
第23回		26年	1~6月	2.0	26.5	59.2	8.2	0.0	4.1	55.8
第22回		25年	7~12月	0.0	11.1	77.8	7.4	0.0	3.7	51.0
第21回		25年	1~6月	0.0	14.3	67.3	14.3	2.1	2.0	48.9
第20回		24年	7~12月	0.0	6.3	62.5	20.8	6.3	4.1	43.0
第19回		24年	1~6月	1.8	18.2	63.6	9.1	1.8	5.5	52.4
第18回		23年	7~12月	0.0	9.6	61.5	23.1	2.0	3.8	45.5
第17回		23年	1~6月	0.0	6.7	64.4	26.7	2.2	0.0	43.9
第16回		22年	7~12月	2.1	8.3	66.7	12.5	6.2	4.2	46.8
第15回		22年	1~6月	2.1	2.1	54.2	35.4	4.1	2.1	40.5
第14回		21年	7~12月	0.0	7.0	56.1	24.6	3.5	8.8	43.3
第13回		21年	1~6月	4.3	2.1	34.0	36.2	14.9	8.5	34.9
第12回		20年	7~12月	0.0	11.1	80.0	8.9	0.0	0.0	50.6
第11回		20年	1~6月	2.1	17.0	70.2	6.4	0.0	4.3	53.9
第10回		19年	7~12月	3.8	26.9	63.5	1.9	0.0	3.9	58.4
第9回		19年	1~6月	8.3	22.9	52.1	8.3	0.0	8.4	58.5
第8回		18年	7~12月	2.1	21.3	53.2	14.9	2.1	6.4	51.7
第7回		18年	1~6月	0.0	13.3	73.3	6.7	2.3	4.4	50.5

第6回	17年	7~12月	0.0	22.0	61.0	9.8	0.0	7.2	53.3
第5回	17年	1~6月	5.0	5.0	65.0	20.0	2.5	2.5	47.4
第4回	16年	7~12月	0.0	16.7	72.2	8.3	2.8	0.0	50.7
第3回	16年	1~6月	0.0	8.0	56.0	30.0	4.0	2.0	42.3
第2回	15年	7~12月	0.0	8.8	57.9	28.1	5.2	0.0	42.6

(注) 雇用見通しは第2回から実施

質問 11 資金繰りの状況(前半期との比較)

				改善した	やや改善	どちらともいえない	やや悪化	悪化した	無回答	DI
今回	令和	4年	1~6月	5.3	10.5	50.0	23.7	10.5	0.0	44.1
前回		3年	7~12月	2.6	30.8	46.2	15.4	5.1	0.0	52.6
前々回		3年	1~6月	2.2	19.6	56.5	15.2	6.5	0.0	48.9
第37回		2年	7~12月	0.0	18.2	52.3	18.2	9.1	2.3	45.3
第36回		2年	1~6月	8.7	8.7	26.1	39.1	13.0	4.3	39.8
第35回		元年	7~12月	2.0	3.9	74.5	11.8	3.9	3.9	47.0
第34回		元年	1~6月	6.5	8.7	69.6	13.0	0.0	2.2	52.2
第33回	平成	30年	7~12月	2.2	24.4	62.2	11.1	0.0	0.0	54.4
第32回		30年	1~6月	2.6	15.8	68.4	10.5	0.0	2.6	52.6
第31回		29年	7~12月	4.7	14.0	62.8	18.6	0.0	0.0	51.3
第30回		29年	1~6月	4.3	17.0	70.2	8.5	0.0	0.0	54.3
第29回		28年	7~12月	2.1	17.0	68.1	12.8	0.0	0.0	53.1
第28回		28年	1~6月	7.4	9.3	61.1	18.5	1.9	1.9	50.5
第27回		27年	7~12月	4.3	10.9	69.6	13.0	2.0	2.2	51.7
第26回		27年	1~6月	2.0	6.2	71.4	16.4	2.0	2.0	47.4
第25回		26年	7~12月	2.1	10.4	64.6	20.8	0.0	2.1	48.4
第24回		26年	1~6月	4.0	20.0	56.0	18.0	2.0	0.0	51.5
第23回		25年	7~12月	4.1	16.3	59.2	18.4	0.0	2.0	51.6
第22回		25年	1~6月	3.7	22.2	51.9	18.5	0.0	3.7	52.9
第21回		24年	7~12月	6.1	16.3	53.1	14.3	8.2	2.0	49.4
第20回		24年	1~6月	2.1	18.8	58.3	8.3	8.3	4.2	49.5
第19回		23年	7~12月	9.1	7.3	50.0	20.9	7.2	5.5	47.4
第18回		23年	1~6月	0.0	9.6	48.1	26.9	11.6	3.8	39.5
第17回		22年	7~12月	0.0	17.8	55.6	15.6	8.8	2.2	46.1
第16回		22年	1~6月	4.2	8.3	54.2	27.1	6.2	0.0	44.3
第15回		21年	7~12月	2.1	4.2	62.5	16.7	14.5	0.0	40.7
第14回		21年	1~6月	3.5	10.5	33.3	36.8	10.6	5.3	39.3
第13回		20年	7~12月	2.1	6.4	44.7	34.0	12.8	0.0	37.8
第12回		20年	1~6月	0.0	13.3	48.9	35.6	2.2	0.0	0.0
第11回		19年	7~12月	4.3	8.5	46.8	27.7	6.3	6.4	43.8
第10回		19年	1~6月	3.8	17.3	53.8	21.2	0.0	3.9	50.9
第9回		18年	7~12月	6.3	16.7	54.2	12.5	6.1	4.2	51.2
第8回		18年	1~6月	0.0	21.3	59.6	12.8	2.0	4.3	51.2

(注) 資金繰りの状況は第8回から実施